

平成24年度 慶應義塾大学体育研究所 活動報告書

特集：スポーツを振興する



目 次

「巻 頭 言」 所長 植田史生	1
I. 特集 スポーツを振興する 加藤幸司	3
II. 研究活動記録(研究委員会)	
1. 個人研究業績・教育業績・研究助成	11
2. 所内定例研究会発表要旨	22
3. 大学体育指導者全国研修会報告	27
III. 教育活動記録	
III－1. 授業の実施(教育委員会)	
1. 平成24年度体育科目の履修者統計	31
2. 授業評価の実施	34
3. 通信教育対象科目	42
4. 他学部における体育関連授業の展開	42
III－2. スポーツイベントの開催(スポーツ振興委員会)	
1. 塾長杯・塾内競技大会	44
2. 公開講座	46
3. 所内施設の開放	47
III－3. 他機関との連携	
1. 公開講座	49
2. 一貫校連携	49
3. 体育会支援	50
IV. 業務活動記録(渡辺主事)	53

巻 頭 言

大学体育研究所

所 長 植 田 史 生

2012（平成24）年は、ロンドンオリンピック（7月27日～8月12日）、パラリンピック（8月22日～9月12日）が開催され日本国中大いに盛り上がりました。オリンピック日本選手団は、選手293名、役員225名、パラリンピック日本選手団は、選手134名、役員121名でした。オリンピックは、その選手の中に4名の塾生、2名の塾員、パラリンピックは、1名の塾生が出場されました。心から敬意を表したいと思います。不断の努力のたまものと思います。また、このような文武両道を貫いている人が身近にいることを誇りに思います。これからも益々活躍して欲しいと思います。

本年度体育履修者は6037名（講義・演習153名、実技5884名）でした。昨年とほぼ同様の履修者でした。ここ数年の減少傾向を受け教育委員会では、来年度に向けてパンフレットの作成、科目設置時間や設置数の見直し等の問題点など検討を重ねています。

研究分野においては、慶應義塾大学体育研究所設立50年記念シンポジウムを受けて研究委員会が、大テーマに「大学体育の今日的課題解決に寄与する総合的研究」を掲げ、「大学体育の教育理念とカリキュラム」、「体育のFD実践、授業プログラム」、「学生のスポーツ行動および大学におけるスポーツ」を小テーマにして体育研究所基盤研究を2年計画で立ち上げました。所員各位の協力をお願いする次第です。

5月12日（土）、19日（土）の2日間、スポーツ医学研究センター・体育研究所・大学院健康マネジメント研究科主催で公開講座「スポーツと健康」を開催し、「安全にスポーツを楽しむために」をテーマにして、本研究所の野口准教授が19日に「野外活動（アウトドアアクティビティ）での危機管理を踏まえた楽しみ方」を講演しました。

また、「スポーツの見方・楽しみ方」を大テーマにして、5月26日（土）～6月16日（土）の各土曜日に体育研究所を中心に、慶應義塾大学読売新聞市民講座を行いました。第1回「スポーツ文化、再発見の旅」村山教授、第2回「武道の心・技・体～剣道における伝統の技術を見る」吉田准教授、第3回「テニスをもっと楽しもう」村松准教授、第4回「自然科学の側面から見た実践的アンチエイジング～人はいつまで走れるか？」小瀬村教授（法学部）の講座は、毎回大盛況で多数の参加者があり、講演後の熱心な質疑応答まで席を立つ人はなく読売新聞社や義塾の関係者から感謝の言葉を頂きました。この企画は毎年継続して開催できるようにお願いしたいと思います。

そして例年開催している、トレーニングルーム解放やフットサル、バレーボール、バスケットボール、卓球の各種大会には多くの参加者を集めています。加えて本年度は、未来先導プロジェクトとして協生館プール特別一般解放、未来先導水泳教室を開催し成功裏に終了いたしました。

最後に、平成24年3月に文部科学省からスポーツ基本計画が策定されました。そのなかに「大学においては、地方公共団体や企業等との連携・協働により、スポーツ医・科学研究や人材の交流、施設の開放、総合型クラブの運営や地元のジュニアアスリートの発掘・育成、スポーツ指導者の養成等スポーツを通じた地域貢献活動を実施することが期待される。」とあります。このことから体育研究所の活動は非常に重要であると考えます。所員各位の努力に感謝したいと思います。

I. 特集：

スポーツを振興する

スポーツ振興委員会

スポーツを振興する

人生50年型社会から人生80年型社会への転換にともない、学校教育システムは生涯教育（あるいは生涯学習）システムへシフトしてきた。学校体育も学校体育を含む生涯スポーツの枠組みの中で捉えられるようになった。一方、大学設置基準の大綱化により大学における体育の履修者数は減少の一途をたどって来ている。このことは学生が運動・スポーツに接する機会が減り、学生生活を通して健康な状態を維持していく上で決してプラスに働かないであろうことは十分に予想される。運動不足の学生が増えていることが懸念されるのである。また、現在在学する学生は、文部科学省の体力・運動能力調査において、子どもの体力・運動能力低下がほぼ下げ止まりになった頃に小学生であった世代である。つまり極めて低い体力・運動能力水準の世代であると考えられる。調査当時は運動不足が当たり前の状態としてライフスタイルに定着したことが原因として推測されている。こうした学生に積極的に運動・スポーツに関わってもらい、アンチエイジングの効果、有効性を理解させることは重要な教育活動の一つと言えるであろう。

体育研究所ではスポーツ振興委員会が中心となり、塾内外の諸機関と連携をはかりつつ、スポーツイベントとしてスポーツ大会や公開講座の企画・開催、体育研究所内施設の開放等により学生や教職員が身近に運動やスポーツへ参加できる機会を増やすべく広くスポーツ振興に取り組んでいる。

○スポーツ大会の開催

体育研究所ではこれまで様々な形のスポーツ振興活動を行ってきた。その中でも大きな柱の一つとなっているのが各種スポーツ大会の開催である。研究所は学生へのスポーツ振興として平成6年度からスポーツ大会を企

画・開催してきたが、平成11年度より「塾長杯」を冠して争奪する大会となって、塾長をはじめとした塾全体がスポーツを奨励する考え方を共有しながら今日まで続いている。現在、塾長杯はフットサル、バレーボール、バスケットボールの3競技あり、年間各1回、日吉記念館で開催されている。参加者数は各大会とも300～400名にのぼる。フットサル大会の開催では、横浜FCとの間でイベントにおけるゲストの派遣等に関して協力関係を積み重ねてきた経緯から、地域に浸透したスポーツの振興と地域経済の活性化に貢献していくことを目指して提携するに至った。また塾長杯ではないが、新春塾内卓球大会を年明け早々に年中行事として行っている。

2012 塾長杯フットサル大会
慶應最強の称号を手にするチームはどこだ!?

開催日時: 6月30日(土)
時間: 10:00~17:00
会場: 日吉記念館

【募集チーム】32チーム(教員チームを含む)
【参加資格】塾生、教職員
【参加費】1チームにつき1000円(1チーム12名まで)
【募集期間】6月18日(月)9:00~6月26日(火)12:00まで

★登録方法★
参加希望チームの代表者は、①氏名②学年③学部④学籍番号⑤携帯電話番号⑥チーム名を明記の上、[PC\(keio.jpのアドレスの所\)からenjoy-sports@ml.keio.jp](mailto:enjoy-sports@ml.keio.jp)までお送りください。
尚、参加希望チームが32チームを超えた場合はその場で抽選を行います。また、折り返される受付確認メールに添付されたファイルに必要事項を記入し、印刷したものを抽選会時にお持ちください。
・抽選会日時⇒**6月27日(水)14:30~14:45受付 14:45~17:30抽選及び抽籤**
・場所⇒**体育研究所2階大会館(日吉キャンパス スポーツ館)**

参加希望チームの代表者は、チーム名、登録選手5名以上の氏名・学年・学部・学籍番号を記入して持ってきてください。書類に記入漏れがある場合は受付できません。また、受付後の選手の変更及び追加はできません。
同一チームからのチーム名を変えての複数申込や、予め登録された選手以外の出場が発覚した場合は、どれに関わった全てのチームを失格とします。

ご不明な点がありましたら、下記にお問い合わせ下さい。
慶應義塾大学 体育研究所スポーツ振興委員会
Tel: 045-566-1068(月~金 9時~17時)
E-mail: enjoy-sports@ml.keio.jp



**2012 慶應義塾大学
塾長杯バレーボール大会**

日時：11月10日(土) 9:00～17:00
 申込期間：10月15日(月)9:00～11月2日(金)13:00(必着)
 参加費：1チームにつき1,000円
 納金期日：登録完了から11月7日(水) 13:00までに
 体育研究所事務室へ納金
 募集チーム：チャンピオンリーグ(経験者中心)
 エンジョイリーグ(未経験者中心)

申し込み方法・・・
 代表者の ①氏名 ②学年 ③学部 ④学籍番号
 ⑤連絡先(携帯番号&メールアドレス) ⑥チーム名
 ⑦希望リーグ(チャンピオンorエンジョイ) を明記の上、
 PC(keio.jp)からenjoy-sports@ml.keio.jpまで送ってください。
 (注)申し込みはkeio.jpのメールアドレスからのみ

※「登録完了」という返信メールをもちまして正式エントリーとなります。
 携帯メールでの申し込み、同一チームからの複数のエントリー、
 同一人物のチーム掛け持ちによる申し込みは一切無効となりますので
 ご注意ください。

＜お問い合わせ＞
 慶應義塾大学体育研究所
 HP: <http://ipe.hc.keio.ac.jp/>
 E-mail: enjoy-sports@ml.keio.jp
 TEL: 045-566-1068(月～金: 9:00～17:00)

**2012 慶應義塾大学
塾長杯
バスケットボール大会**

開催日 12月15日(土)
 時間 9:00～17:00
 会場 日吉記念館

＜募集要項＞
【大会種目】以下の2種目、各12チームで実施します。
 ①アルティメットリーグ(例年男子を中心にハイレベルなチームがしのぎを削るリーグ)
 ②エンジョイリーグ(老若男女が試合を楽しみながらも勝利を目指すリーグ)
【参加資格】塾生(男女問わず、大学院生以上も可)
【参加料】1チームにつき1000円
【申込方法】参加希望チームの代表者は下記を明記の上、PC(keio.jpのアドレスのみ)から
enjoy-sports@ml.keio.jpへお送りください。
 ①氏名②学年③学部④学籍番号⑤携帯番号⑥チーム名の希望リーグ
 後日返信される「受付完了メール」を必ずご確認ください。
 申込後、「受付完了メール」に添付される「申込書」に必要事項を記入の上、印刷して
 「抽選会当日」にお持ちください。
 ※keio.jpのアドレス以外の申込は受け付けません。
 ※後日返信される「受付完了メール」を必ずご確認ください。
 ※同一チームからの複数のエントリー、同一人物のチーム掛け持ちによる申込は
 一切無効となります。
 ※抽選会当日に出場者全員の学生証のコピーをお持ちください。
【申込期間】12月6日(木)9:00～12月12日(水)13:00 まで
【抽選会】12月13日(木)16:00～17:00 体育研究所2階会議室
【問い合わせ】慶應義塾大学体育研究所(スポーツ振興委員会)
 HP: <http://ipe.hc.keio.ac.jp>
 E-mail: enjoy-sports@ml.keio.jp
 Tel: 045-566-1068(月～金 9:00～17:00)

○公開講座の開催

スポーツ大会とならび重要なスポーツ振興活動となっているのが公開講座の開催である。これは主として塾内教職員および地域住民を対象に開かれるスポーツ健康教室で

ある。これは高齢化社会が現実のものとなりつつある現代において、健康で豊かな生活と活動の啓蒙、生涯スポーツへの足掛かりとなる貴重な機会であると位置づけ実施している。これまでフィットネス教室、トレーニング教室、社交ダンス教室、健康エアロビクス教室、中高年水泳教室、アスレティックトレーニングセミナー、健康ジョギング教室、ヨガ&エアロビクス、水泳教室などを開催してきた。またシンポジウムを開催し、「21世紀の大学スポーツを考える」というテーマのもと、様々な角度からキャンパスライフとスポーツについて考え、広い視野に立った新たなスポーツ文化の模索を試みてきた。

**2012 慶應義塾大学体育研究所
公開講座「ヨガ & エアロビクス」**

【日程】10/1(月)、10/5(金)、10/12(金)、10/15(月)、10/19(金)、10/22(月) 全6回
 ※月曜日はヨガ、金曜日はエアロビクス
 【時間】18:30～19:30
 【場所】慶應義塾大学日吉キャンパス・協生館地下1階エクササイズスタジオ
 【対象】健康・体力に関心のある方、運動不足の方、体力向上を目指す方
 【定員】先着20名
 【受講料】4,000円(塾内2,000円)※保険料含む
 【講師】奥山静代氏(慶應義塾大学体育研究所専任講師)
 杉本亮子氏(慶應義塾大学体育研究所非常勤講師) 他
 【内容】週に2回、カラダにココロにいい刺激を与えてみませんか？
 ヨガはじっくり呼吸に合わせた動きでストレッチ&リラクゼーション。
 ノリのよい音楽に合わせたエアロビクスダンスで全身リフレッシュ。
 日頃の運動不足、ストレス発散のヒント満載でお届けします！

【申込方法】
 1) タイトルに「ヨガ & エアロビクス」と記入 2) 氏名 3) 年齢 4) 性別
 5) 住所 6) 電話番号 7) PCメールアドレスもしくはFAX番号
 8) 今後、体育研究所主催のイベント情報をご希望されますか？(はい・いいえ)を明記の上、E-mailまたはFAXにてお申し込みください。
 ※ 個人情報(今回の「ヨガ & エアロビクス」以外の目的で使用する)は一切ありません。

【受付期間】9月3日(月)～9月20日(木)まで ※但し、定員になり次第締切
【申込・お問い合わせ】
 慶應義塾大学体育研究所 コーディネイトオフィス
 TEL: 045-566-1068
 FAX: 045-566-1089 (9:00～17:00 / 土日祝除く)
 E-mail: sports-coordinateoffice@ml.keio.jp
 ※ ☆印を@に変換してください。
 主催：慶應義塾大学体育研究所



○体育研究所内施設の開放

塾内のスポーツ施設の有効利用の一環として体育研究所では、協生館トレーニングルームと多目的コートを無料開放している。これは学生の健康増進と体力向上のための場を提供している。開放時、トレーニングルームには体育研究所教員および学生スタッフが常駐し、トレーニング機器の使用法の説明、トレーニングの補助、トレーニングに関するアドバイス等を行っている。協生館トレーニングルームの開放が学生の間に広く知られるようになったこともあり、年間利用者数は1,500

名を超えている。多目的コートは貸出し当初、バレーボールやフットサルでの利用が多かったが、現在ではそれ以外の学生団体同士のスポーツ交流の場としても利用が進むスペースとなっている。多目的コートの年間稼働率は80%を超える程度である。

その他の施設として、25年度から運営サービスとの共同事業で協生館プールの一般開放を計画・準備中である。既に開放のためのシミュレーションを終え、開放へ向けて最終準備段階に入っている。スポーツ振興委員会では、プール開放に対する学生、教職員のニーズは高いと見ており、より多くの開放機会を提供したいと考えている。

○まとめとして

ここまで体育研究所の主なスポーツ振興活動を紹介した。スポーツ大会や公開講座の開催、運動施設の開放を通して、体育授業以外の時間にも運動やスポーツに接する機会を増やし、より健康的な生活を獲得するための支援を行ってきた。ただこうした活動を展開する中で気になることは、正課体育の授業でも見られるように、運動やスポーツをする学生としない学生に二極化している、あるいは二極化しつつあるということである。これは現在の子どもたちにも表れている現象であるが、一つの懸念材料である。スポーツイベントに参加する学生の多くは、運動やスポーツへのコミットメントが確立されていて、主体的に取り組んでいることが強く感じられる。そもそもスポーツは嫌々行うものではなく、主体性を持って取り組むことに意味があるのだからそれでいいのであるが、運動やスポーツ活動に取り組まない学生はより一層運動不足に陥る可能性が高く、健康的な生活習慣を確立することから縁遠くなると考えられる。

今後は、運動・スポーツ活動から縁遠くなっている学生や、運動したくても一歩踏み出せないでいる学生に対して、いかに身体活

昼休みに運動不足を解消しよう！！

プール特別一般開放

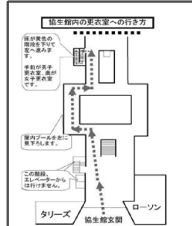
2013年1月17日(木)・18日(金)
昼休み(12:15～13:00)

■場所: 協生館地下1階大学施設プール
 ■受付: 協生館地下1階大学施設入口
 ■対象: 塾生(学部生・院生)
 ※教職員は除く

【持ち物】
 水着、スイミングキャップ、
 ゴーグル、タオル、学生証 など

【その他】
 事前申込はございません。
 当日、受付にて学生証を提示してください。

主催: 慶應義塾大学体育研究所
 問合せ: 045-566-1068(月～金 9:00～17:00)
 (当日問合せ) 協生館教員室 (内線: 37800)



トレーニングルーム 一般開放

10月1日(月)～12月21日(金)
1月7日(月)～1月18日(金)
毎週月・水・木・金曜日
15:00～18:00

協生館 地下1階
 「トレーニングルーム」を無料で一般開放します！！
 塾生はもちろん教職員の方々もご利用になれます！！
 イイ汗かいて…日頃の運動不足を解消しましょう！！

詳しくは **体育研究所HP** をご覧ください。
 また、開放中はスタッフがおりますので、
 遠慮なくお尋ねください。




動の楽しさやその魅力、重要性を伝えるかという啓蒙に力を使わなければなるまい。空いた時間をスポーツイベントや運動活動へ向けることは、単に健康的な生活を送るということに留まらず、交友関係を広げ、コミュニケーション力を養う上でも有効であり、将来的により健康的な生活習慣を確立する助けになるだろう。そうした運動・スポーツ活動の多様な効果効用を丁寧に説明し、運動への参加へ背中を押してあげるというスタンスで取り組んでいければよいと考える。

Ⅱ．研究活動記録

(研究委員会)

1. 個人研究業績・教育業績・研究助成

植田 史生 【教授】

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・ハーヴァード大学剣道夏合宿講師，長崎，2012年8月
- ・南ドイツ剣道夏季稽古会講師，ドイツ，2012年9月
- ・ハーヴァード大学剣道秋季稽古会講師，ハーヴァード，2012年11月

(役職)

- ・日本レーザー・スポーツ医科学学会理事
- ・ハーヴァード大学剣道部ヘッドコーチ，ライフタイムディレクター

当年中の研究教育活動の概要

日本医用レーザー研究所と共同で，低反応レーザー照射による筋機能に関する研究を行いながら簡易低反応レーザーの実用化に向けて開発中である．

近藤 明彦 【教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・市村操一，川北準人，石村郁夫，浦井孝夫，羽鳥健司，近藤明彦，“バスケットボール選手の価値観と達成指向はスポーツ態度を予測するか？”，東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部—，第20号：1-13頁，2013年3月．

佐々木 玲子 【教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・佐々木玲子，“子どものリズムと動きの発達”，バイオメカニズム学会誌，36-2：73-78，2012．
- ・佐々木玲子，石沢順子，楠原慶子，奥山静代，“運動様式の違いからみた幼児の日常身体活動量と基本的運動能力との関係”，慶應義塾大学体育研究所紀要，52-1：1-10，2013．
- ・石沢順子，佐々木玲子，松寄洋子，吉武裕，“保育中の自由遊びと一斉活動における身体活動水準の違い—活発な子どもと不活発な子どもの比較—”，東京純心女子大学紀要，17：19-28，2013．

(執筆)

- ・佐々木玲子，“子どもの遊びと遊ぶ力～遊びで培われる知力と体力～”，みんなのスポーツ，34-7，（公社）全国スポーツ推進委員連合，12-14，2012．
- ・佐々木玲子，“子どもの体力・運動能力の向上のために”，健康教室，63-16，東山書房：14-16，2012．

学会発表

- ・仲立貴，田中千晶，引原有輝，安藤貴史，薄井登誉子，佐々木玲子，田中茂穂，“幼児の基礎的動きと体力・運動能力との関係”，第67回日本体力医学会大会，岐阜県，9月14-16日．
- ・佐々木玲子，石沢順子，“幼児の日常身体活動量と基本的運動能力との関係～運動様式による違い～”，日本子ども学会第9回子ども学会議学術集会，東京，10月20-21日．
- ・石沢順子，佐々木玲子，松寄洋子，吉武裕，“一斉活動における運動遊びの継続的な実施が幼児の身体活動水準に及ぼす影響”，第11回日本発育発達学会，静岡，3月16-17日．

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演・講師)

- ・健康運動指導士養成講習会，“青少年期の成長発達とトレーニング”，東京，2012年5月，12月．

- ・日本レクリエーション協会「親子元気アップ！事業」元気アップコーディネーター講習会，“子どもの体力の現状と課題～「親子元気アップ！」に向けて～”，東京・国立オリンピック記念青少年総合センター，2012年5月．
 - ・慶應義塾大学・読売新聞市民講座「スポーツの見方・楽しみ方」（コーディネーター），慶應義塾大学日吉キャンパス，2012年5月26日～6月16日．
 - ・日体協ジュニアスポーツ指導員養成講習会，“ジュニア期のスポーツの考え方”，岡山，2012年9月．同，神奈川，2012年10月．
 - ・東京都スポーツ推進委員 広域地区別研修会（第4ブロック），“子どもの体力向上とスポーツ推進委員の役割”，東京，2012年9月
 - ・日体協公認スポーツ指導者養成講習会（スポーツプログラマー），“ジュニア期のスポーツ”，東京，2012年11月．
 - ・全国学校体育研究大会東京大会幼稚園プレ発表会，“健康な心と体を育てるために”，東京・江戸川区立船堀幼稚園，2012年11月．
 - ・日本女子体育大学附属基礎体力研究所第23回公開研究フォーラム「人を育て鍛え守るー運動・スポーツ・トレーニングの役割ー」，“発育期における運動のあり方ー幼少期の発達特性に着目してー”，日本女子体育大学，2012年11月．
 - ・第14回身体知研究会 シンポジウム「リズムと身体運動の関わり」（シンポジスト），“子どものリズムと動きの発達”，慶應義塾大学日吉キャンパス，2012年11月．
 - ・生涯スポーツ・体力づくり全国会議2013ー人・スポーツ・未来ー，第4分科会シンポジウム「ライフステージに応じた体力向上・元気アップ支援の在り方ー運動習慣をつけるための取り組みー」（シンポジスト），“子どものライフステージに応じた望ましい運動習慣・スポーツ実践についてー子どもの“体力”と大人の関わりー”，宮崎，2013年1月．
 - ・日体協ジュニアスポーツ指導者養成講習会 特別講習，“ジュニアスポーツ指導員の役割”，東京，2013年2月．
- （役職）
- ・日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会委員
 - ・横浜市スポーツ振興審議会委員
 - ・東京体育学会理事
 - ・比較舞踊学会副会長，理事，編集委員
 - ・日本子ども学会理事
 - ・日本体育協会「アクティブチャイルドプログラム普及啓発事業」有識者会議委員
 - ・日本レクリエーション協会「親子元気アップ！事業」実行委員会委員
 - ・笹川スポーツ研究助成選考委員会委員，同選考部会長
 - ・「子どもと発育発達」編集委員
 - ・「International Journal of Sport and Health Science」（日本体育学会）編集委員

研究助成等

- ・“幼児における基本的運動能力と日常身体活動との関係～量および質的側面からの検討～”，文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），（22500528），70万円．
- ・“日本人の基礎的動きの標準値およびデータベースの構築”，文部科学省科学研究費（基盤研究（A）），（21240060），20万円．研究代表者：阿江通良（筑波大学）
- ・“幼児の運動遊びを通しての身体能力の発達と保育環境”文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），（90331511），5万円．研究代表者：松寄洋子（埼玉学園大学）

綿田 博人 【教授】

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（役職）

- ・慶應義塾体育会副理事
- ・慶應義塾体育会柔道部部長代行

- ・慶應義塾高等学校硬式野球部特別招聘コーチ

石手 靖 【教授】

学会発表等

- ・鳥海崇，森下愛子，石手靖，藤本秀樹，“平成24年度総合的水泳教育プログラムの実施報告”，第16回日本水泳・水中運動学会，福岡大学，2012.10.20~21.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

- ・早稲田大学オープン教育センター講師（非常勤），通年
- ・日本バレーボール学会理事・渉外委員長
- ・日本レーザー・スポーツ医科学学会理事
- ・第16回日本レーザー・スポーツ医科学学会大会シンポジウム座長，2012年12月
- ・横浜ビーチバレーボール連盟理事
- ・大学ライフスポーツ教育学会理事

研究助成等

- ・“ブラインドサッカーを通じた身体知・障がい理解教育プログラムの開発と KEIO フットサルアドベンチャー2012の開催”，調整予算（日吉）プロジェクト事業，31.8万円
- ・“早慶体育授業「バレーボール」クラス交流試合の開催”，調整予算（日吉）プロジェクト事業，13.8万円.

村山 光義 【教授】

著書・論文・執筆・報告書

（論文）

- ・村山光義，加藤大仁，須田芳正，村松憲，野口和行，“体育実技履修学生の社会的スキル及び自己効力感の水準に関する基礎的検討” 慶應義塾大学体育研究所紀要，52（1）：P21-31，2013.1
- ・野口和行，須田芳正，村松憲，村山光義，加藤大仁，“学生の社会的スキル向上を目指した体育実技実践の試み” 慶應義塾大学体育研究所紀要，52（1）：P11-20，2013.1

学会発表等

- ・Murayama M, Kuwada K, Uchiyama T, Yoneda T, “Normalization of muscle hardness for lower limb muscles by considering individual muscle thickness” 17th Annual congress of the European College of Sport Science, Bruges (BELGIUM), Book of abstracts P 195, 2012.7
- ・村山光義，加藤大仁，須田芳正，村松憲，野口和行，“体育実技履修学生の自己効力感および社会的スキルの変化に関する基礎的検討（その2）” 第63回日本体育学会，東海大学，予稿集 P 127，2012.8
- ・村山光義，“光治療の筋に対する作用 ” 第16回日本レーザー・スポーツ医科学学会【シンポジウム2】「LLLT, LED とスポーツ医科学・アスリートの新たな問題点」，慶應義塾大学，2012.12

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講演）

- ・村山光義，“慶應義塾大学・読売新聞社 市民講座「スポーツの見方・楽しみ方」講師 「スポーツ文化、再発見の旅」”，慶應義塾大学，2012.5
- ・村山光義，“神奈川県体操協会・神奈川県体力づくり体操連盟指導者研修会 講師 「スポーツと遊びの文化を考える」”，神奈川県スポーツ振興センター，2012.7
- ・村山光義，“慶應義塾通信教育課程 新潟慶友会講演 「遊びとスポーツと社会の関係を考える ～ニューコンセプトスポーツの拡大とともに～」”，新潟市，2012.10
- ・村山光義，“海老名市体育協会設立40周年講演会 講師 「Player になろう ～遊びとスポーツと体育の話～」”，海老名市，2013.3

（講師）

- ・順天堂大学 キャンプ実習 指導スタッフ，南蔵王野営場，2012.9

(役職)

- ・慶應義塾大学日吉キャンパス Hiyoshi Reaserch Portfolio 実行委員
- ・公益社団法人全国大学体育連合理事(総務部長)
- ・日本レーザー・スポーツ医科学学会 事務局代表
- ・一般法人日本バイアスロン連盟 科学委員

当年中の研究教育活動の概要

当年は、個人研究としての学会発表に加え、体育研究所内で継続的な研究テーマを掲げ多角的に研究活動を推進する「基盤研究」の立ち上げを研究委員会のまとめ役として進め、活動を開始するに至った。ここには、公益社団法人全国大学体育連合の理事として関わる「大学体育改革」の活動と情報を活かしたテーマを設定することが出来た。また、日吉キャンパスの研究成果報告会である Hiyoshi Reaserch Portfolio の実行委員としてもワークショップの企画等に携わり、体育研究所内及びキャンパスにおける研究交流の推進に努めるべく活動を行った。さらに、「スポーツ」の理解と実践を大学から発信すべく、スポーツと遊びの文化に関するテーマで、読売新聞社・慶應義塾大学共催市民講座の他、複数個所で講演を行った。

山内 賢【准教授】

著書・論文・報告書

(論文)

- ・山内 賢,「高齢者が行う両ストックを用いたフィットネス・ウォーキングの心理的効果」,ウォーキング研究 No16: p219 - 224, 2012年12月

(執筆)

- ・山内 賢,,「心の豊かさ体力をストックするストックウォーキングの効果」, Walking PLUS vol3, 一般社団法人日本ポールウォーキング協会: p8-10, 2012年
- ・山内 賢,「1日1万歩の根拠は?」, Walking PLUS vol4, 一般社団法人日本ポールウォーキング協会: p10, 2012年
- ・山内 賢,「学会報告レポート: 高齢者を対象にした歩行用ストックを使うウォーキングエクササイズ」の心理的効果」, Walking PLUS vol4, 一般社団法人日本ポールウォーキング協会: p11, 2012年

学会発表等

- ・天下聖治, 山内 賢, 市河 勉, 荻田 亮,「運動の再現性に効果的な映像学習の開発～ 2画面動画同時再生を利用した動作学習の可能性～」, 日本体育学会第63回大会, 神奈川: 予稿集 p333, 2012年 8月
- ・山内 賢, 市河 勉, 杉浦伸郎, 柳川郁生,「高齢者を対象にした歩行用ストックを使うウォーキングエクササイズ」の心理的効果」, 第67回日本体力医学会大会, 岐阜: 予稿集 p255, 2009年 9月
- ・阿久根 英昭, 山内 賢, 松本 慶,「振動磁場共鳴エネルギーとスポーツパフォーマンスとの関連検証研究ー「V×4」装着が平行保持機能に及ぼす影響についてー」, 第67回日本体力医学会大会, 岐阜: 予稿集 p221, 2009年 9月
- ・山内 賢, 内山映子, 市河 勉,「2画面動画同時再生が可能な PC ソフトによる運動動作学習の効果と利便性」, 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口: 抄録集, p553, 2012年10月
- ・Ken Yamauchi, Yukiko Lau, Seiji Oshita, Tsutomu Ichikawa, Ikuro Yanagawa, Akira Ogita
「Psychological Effectiveness of Fitness Walking for Older Adults」, The Gerontological Society of America 62nd Annual Scientific Meeting, San Diego, USA: p150, Nov18-22, 2012 (Program, p55) Atlanta, USA.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

- ・大学体育連合 FD 推進部委員 通年

(講師)

- ・山内 賢,「ノルディック歩行で健康になろう」, 社会福祉法人聖隷福祉事業団, 神奈川県藤沢市住宅型有料老人ホーム藤沢エデンの園, 2012年 4月24日.
- ・山内 賢,「ストックウォーキング体験会」, 新島村健康づくり推進協議会, 東京都新島村さわやか健康セ

ンター，2012年7月21日．

・山内 賢，「第71回日本公衆衛生学会総会座長」，第18分科会，健康運動指導，2012年10月25日．

当年中の研究教育活動の概要

高齢者が歩行能力を維持・向上していくためには，積極的な歩行運動を行う事実が必要となる．歩行をエクササイズとして考える場合はフィットネス・ウォーキングと称される．フィットネス・ウォーキングのひとつの選択肢として，ポール・ウォーキングが類されている．ポール・ウォーキングは，ウォーキング姿勢を整え，単なるウォーキングをするよりも消費するエネルギーが大きくなるとの報告がある．近年の研究テーマは，ポール・ウォーキングを高齢者が安全に行える運動プログラムの構築である．運動は実行することにより，心身に何らかの効果が期待できる．しかし継続しなければその効果が薄れることは既知のことである．また，継続に必要な条件として動機づけがあげられる．そこで本年度は，ポール・ウォーキングを高齢者が行うときの運動継続意欲の状態を探るために，二次元気分尺度を用いた一過性であるが，ポール・ウォーキングを行うことによる気分の変化を分析した．結果は，気分が向上するという運動の動機づけに関して良好な結果を得た．また，研究開発として，ウォーキングの動作観察が2画面で比較できる映像再生ソフト「COACH」の開発も手がけた．

吉田 泰将 【准教授】

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(役職)

- ・日本武道学会 評議員 通年
- ・一般財団法人全日本剣道連盟 評議員 通年
- ・一般財団法人全日本剣道連盟 社会体育指導員委員会・委員 講習会 講師 通年
- ・財団法人全日本学校剣道連盟 常務理事・事務局長 通年
- ・第54回全国教職員剣道大会 総務委員長 (2012.8.12)
- ・全日本学生剣道連盟・関東学生剣道連盟 審判員 通年
- ・全日本学連剣友会 事務局長 通年
- ・関東学連剣友連合会 理事長 通年
- ・東京学連剣友連合会 理事 通年
- ・慶應義塾体育会剣道部(三田剣友会) 副師範 通年
- ・慶應義塾大学医学部体育会剣道部 師範代行 通年

(資格)

- ・財団法人 全日本剣道連盟 剣道教士八段

(大会出場)

- ・第12回 寛仁親王杯剣道八段選抜剣道大会 (2012.9.8)

当年中の研究教育活動の概要

スポーツ技術向上に寄与する指導プログラムの開発を課題としてモーションセンサを用いた剣道竹刀の素振り評価システムの開発と映像の即時フィードバックによる技術指導の効果について検討を行った。

加藤 大仁 【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・加藤大仁 「スポーツと政治ーなぜ今スポーツが政治的課題となるのか」 現代スポーツ評論26：pp.86-95
- ・野口和行・須田芳正・村松憲・村山光義・加藤大仁 「学生の社会的スキル向上を目指した体育実技実践の試み」 慶應大学体育研究所紀要 52(1)：pp.11-20
- ・村山光義・加藤大仁・須田芳正・村松憲・野口和行 「体育実技履修学生の社会的スキルおよび自己効力感の水準に関する基礎的検討」 慶應大学体育研究所紀要 52(1)：pp.21-31

(新聞記事)

- ・加藤大仁 「楽しめる環境づくりを」 毎日新聞2012/10/4 夕刊(インタビュー記事)

学会発表等

- ・加藤大仁 「スポーツ立国論とその政治的背景―混迷した政治状況下でのスポーツ政策について」 日本運動・スポーツ科学学会第19回大会：2012年6月.
- ・村山光義・加藤大仁・須田芳正・村松憲・野口和行 「体育実技履修学生の自己効力感および社会的スキルの変化に関する基礎的検討(その2)」 日本体育学会第63回大会：2012年8月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会専門科目(バスケットボール) 講師 於さいたま市立大宮北高校 2012/10/13・22 依頼元：埼玉県バスケットボール協会.
- ・日本バスケットボール協会テクニカル委員会コーチコミッティーグループメンバー 2012/10～.

板垣 悦子 【准教授】

塾内派遣留学中(アメリカ合衆国 カリフォルニア州立サンノゼ大学)

当年中の研究教育活動の概要

アメリカは先進医療国の先端をいいますが、今や現代医学と相反するはずの「代替医療」の研究と実践を官民一体となって推進する「代替医療先進国」となっています。そこには医学が発達したにも関わらず年々膨れ上がる国民の医療費を削減していきたいという思いがあるからです。

また保険制度がアメリカの場合は民間の会社と個々に契約を結び、病気の人が増えれば契約している保険会社の保険料も上がるので、自ずと国民一人ひとりが自分の健康を守ろうという健康志向が強くなったことも代替医療が発達した要因の一つであると考えられます。

代替医療はエクササイズ、マッサージ、アロマセラピーやサプリメント等を利用することで未然に病気を防ぐこと、予防医学とも称されますが、単純に未病だけでなく精神面での安定も含めたホリスティックヘルスが重要視されています。私がサンノゼ州立大学に留学しましたのも、所属している運動学科と、全学生と教職員の健康診断等や医療アドバイス等を統括している保健センターとが連携しながら来院数を減らすという目的もあり体育を必修としている大学、すなわち代替医療を実践している大学ということがあり、必ずや健康教育に関する方法も学べると確信したからです。

代替医療と現代医療の違いは、科学的根拠が立証されているかどうかということです。現代医療には、科学的根拠が立証されているものが多く、それに比べて代替医療では科学的根拠が明確に立証されているものが少ないのです。

そこで初めに留学先であるサンノゼ大学ではどのように体育授業を行っているのかを調査・体験するため、「健康」がキーワードになっている種目を中心に以下の授業を受講しました。(受講した種目:ピラティス、ヨガ、体力トレーニング、フィットネスウォーキング、エアロビクス、卓球)実際に受講した種目の中で最も興味を持ったのは「ピラティス」です。ピラティスはエアロビクスを基に開発されたエクササイズでヨガや太極拳との共通点も多いといわれています。ヨガはリラックスを主な目的としていますが、ピラティスは呼吸法を活用しながら丹田と骨盤底などを意識して正しい姿勢や身体の運用法を身につけ、体幹の深層筋(インナーマッスル)をストレッチによって効率的に身体を鍛えることを目的にしています。

私自身も実際に9月(新学期)から「ピラティス」を受講してからは体調が以前よりさらに良くなったと感じ、特に昔の古傷の腰痛の緩和が実感できました。また身体だけでなく精神的にも何か楽になってきたと感じています。

様々な健康エクササイズがあるアメリカでピラティス人口は年々増加傾向にあります健康効果についての論文はまだ少なく、エビデンスに乏しいのです。「ピラティス」の健康効果を調査により探ることでホリスティックヘルスの理解へとつながっていききたいと思います。

そこで健康教育に関する資料収集の一つとして、体育実技「ピラティス」「ヨガ」を受講している学生に対

して、身体面（腹部の使い方の違いで差があるかも含め）精神面からの健康意識アンケート調査をし、受講の前後での実際の健康効果の違いを探ることを研究目的としました。具体的には「ピラティス」「ヨガ」の受講学生を対象として受講前後の身体と精神の状態変化をアンケートにより調査する。また腹部（丹田）の使い方の理解に差があるのかも併せて調査することにより「ピラティス・ヨガ」の健康効果について考察する。さらには帰国後は体育研究所で開講している「ピラティス・ヨガ」および「太極拳」の受講学生にも同様のアンケート調査を実施しアメリカの大学生との比較も行いたいと思います。

加藤 幸司 【准教授】

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講師）

- ・平成24年度 財団法人日本体育協会公認コーチ専門科目（後期）講習会（バドミントン），茨城，2013年1月．
- ・早稲田大学オープン教育センター講師（非常勤），通年

（役職）

- ・慶應義塾大学体育会バドミントン部女子監督

須田 芳正 【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

（論文）

- ・野口和行，須田芳正，村松憲，村山光義，加藤大仁，“学生の社会的スキル向上を目指した体育実技実践の試み”，慶應義塾大学体育研究所紀要，52（1）：p11-20，2013.1
- ・村山光義，加藤大仁，須田芳正，村松憲，野口和行，“体育実技履修者学生の社会的スキルおよび自己効力感の水準に関する基礎的検討”，慶應義塾大学体育研究所紀要，52（1）：p21-32，2013.1

学会発表等

- ・村山光義・加藤大仁・須田芳正・村松憲・野口和行 「体育実技履修学生の自己効力感および社会的スキルの変化に関する基礎的検討（その2）」 日本体育学会第63回大会：2012年8月．

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講師）

- ・慶應義塾幼稚舎体育特別講師2012.12
- ・早稲田大学オープン教育センター講師（非常勤），通年

（役職）

- ・慶應義塾大学体育会サッカー部監督
- ・関東大学サッカー連盟常務理事（技術委員会）

野口 和行 【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

（論文）

- ・野口和行，須田芳正，村松憲，村山光義，加藤大仁 “学生の社会的スキル向上を目指した体育実技実践の試み”，慶應義塾大学体育研究所紀要，52：11-20，2013.
- ・村山光義，加藤大仁，須田芳正，村松憲，野口和行 “体育実技履修学生の社会的スキルおよび自己効力感の水準に関する基礎的検討”，慶應義塾大学体育研究所紀要，52：21-31，2013.

学会発表等

- ・野口和行，木本多美子，高瀬宏樹 “自閉症のある児童・生徒を対象とした冒険プログラムを含んだ野外教育プログラムの実践”，第15回日本野外教育学会，沖縄，2012年7月．
- ・Noguchi, K, “Outdoor adventure program for individuals with autism in the United States”, 1st JOES International Research Forum, Okinawa, 2012.7.

- ・村山光義，加藤大仁，須田芳正，村松憲，野口和行「体育実技履修生の自己効力感および社会的スキルの変化に関する基礎的検討」，日本体育学会第63回大会，神奈川，2012年8月。

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演)

- ・野口和行，“野外活動での危機管理を踏まえた楽しみ方”，2012年度スポーツ医学研究センター公開講座，神奈川，2012年5月。
- ・野口和行，“キャンプ・ロイヤルを知っていますか？—自閉症児・者がキャンプをする意味”，桃山学院大学人権週間講演会，大阪，2012年12月。

(講師)

- ・(公社)日本キャンプ協会キャンプディレクター2級講習会講師，秋田，2012年8月。
- ・平成24年度ジュニアスポーツアジア交流大会選手団交流プログラム講師，東京，2012年8月。
- ・(公財)日本教育科学研究所アウトドアゲーム指導法講習会講師，群馬，2012年10月。
- ・(公社)日本キャンプ協会キャンプディレクター1級講習会講師，静岡，2012年11月。

(役職)

- ・大学スケート研究会 理事長
- ・(公社)日本キャンプ協会 運営委員
- ・(公財)日本教育科学研究所 研究員

村松 憲【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・野口和行・須田芳正・村松憲・村山光義・加藤大仁「学生の社会的スキル向上を目指した体育実技実践の試み」慶應大学体育研究所紀要 52(1): pp.11-20
- ・村山光義・加藤大仁・須田芳正・村松憲・野口和行「体育実技履修学生の社会的スキルおよび自己効力感の水準に関する基礎的検討」慶應大学体育研究所紀要 52(1): pp.21-31

学会発表等

- ・村山光義・加藤大仁・須田芳正・村松憲・野口和行「体育実技履修学生の自己効力感および社会的スキルの変化に関する基礎的検討(その2)」日本体育学会第63回大会:2012年8月。
- ・村松憲、高橋仁大、梅林薫，“テニス世界ランキング1位選手のボール回転量について”，第24回テニス学会，島根大学，2012年12月

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(フィールドワーク)

- ・(財)日本オリンピック委員会強化スタッフ(情報・戦略スタッフ)、通年
- ・(財)日本テニス協会強化本部ナショナルチーム・テクニカル・サイエンスサポート(通年)
- ・日本テニス学会運営委員(審査担当兼編集委員)、通年
- ・第24回テニス学会シンポジウム演者「テニスを科学するとは?・その2」島根大学、2012年12月

(講師)

- ・村松憲，“テニスをさらに楽しもう!楽しいって?何だろう”，公益社団法人日本テニス事業協会 第5回スクール部会，東京都新宿区，2013年3月
- ・村松憲，“テニスをもっと楽しもう”，慶應義塾大学・読売新聞市民講座，神奈川県横浜市，2012年6月
- ・村松憲，“テニスをさらに楽しもう”横浜インターナショナルテニスコミュニティ、コーチ研修会，神奈川県横浜市，2012年11月

当年中の研究教育活動の概要

世界トップレベルテニスにおけるボール回転量とスピードの検討を行った。また実技授業において「テニスを楽しむ」「スポーツを楽しむ」という感覚をより深く感じてもらうための取り組みの一つとして、「感謝

できることをみつける」という実習を毎回行った。

奥山 静代 【専任講師】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・佐々木玲子, 石沢順子, 楠原慶子, 奥山静代 運動様式の違いからみた幼児の日常身体活動量と基本的運動能力との関係, 慶應義塾大学体育研究所紀要 52. 1-10. 2013.

(その他)

- ・奥山静代, “ワークキャパシティを落とさない—運動はなぜ必要か—”, Health & Beauty Review, 講談社: 21-25, 2012.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・奥山静代, “ボディメイクエクササイズ講習会”, 横浜市立都田西小学校 PTA 講習会, 横浜, 9月.

鳥海 崇 【専任講師】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・鳥海崇, 森下愛子, 渡辺一仁, “巻き足動作の強さと巧みさとの関連について—大学水球部員による3次元動作分析から—”, 体育研究紀要, 第52巻1号: pp33-37, 2013年1月.

(執筆)

- ・鳥海崇, “FINA ワールドリーグアジア／オセアニアラウンド男子日本代表の戦いを振り返って”, 月刊水泳6月号, 第431巻: pp20-21, 2012年6月.

学会発表等

- ・Takashi Toriumi, Aiko Morishita, Kazuhito Watanabe, “Kinematic analysis of eggbeater kicks with and without fatigue (from male college water polo players)”, International Symposium on 3D Analysis of Human Movement (3DAHM), 2012.7.18-20.
- ・鳥海崇, 森下愛子, 石手靖, 藤本秀樹, “平成24年度総合的水泳教育プログラムの実施報告”, 第16回日本水泳・水中運動学会, 福岡大学, 2012.10.20-21.
- ・鳥海崇, 森下愛子, “大学水球選手における巻き足動作の3次元動作分析”, 第25回日本トレーニング科学会大会, 立命館大学, 2012.12.1-2.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演)

- ・通信教育学部学生団体主催講演会講師, 「ロンドンオリンピック〜水泳〜», 慶應義塾大学, 2012.9.15

(講師)

- ・“未来先導水泳教室〜水に親しむ〜”, 日吉キャンパス協生館プール, 鳥海崇, 森下愛子, 石手靖, 藤本秀樹, 体育会水泳部, 2012.5.28-6.24, 10.28-11.25 (毎週日曜日).

(役職)

- ・2012年 FINA 水球ワールドリーグアジア大洋州ラウンド, 日本代表チーム, コーチ

研究助成等

- ・鳥海崇, 森下愛子, 石手靖, 藤本秀樹, “ロンドンオリンピック水泳選手の身体形態のシーズン変化の測定”, 平成24年度福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金研究補助, 1,120千円.

当年中の研究教育活動の概要

2012年度は体育研究所での研究, 教育活動の4年目である.

教育活動については昨年度同様, 実技は「水泳」と「水球」を, 講義は「スポーツコーチング概論」と「チームスポーツコーチング」を担当した. また授業以外では「未来先導水泳教室」を実施した. 昨年度は幼稚舎

生のみを対象としたが、本年度は幼稚舎生だけでなく一貫校中学生にも対象を広げた。

研究活動については、先述した水泳教室の参加者動向についての前年度の比較、そして実施内容の検討過程と変更点を第16回水泳水中運動学会にて報告した。また、一昨年からの継続研究である水中モニターシステムを用いた水球選手の巻き足動作の動作分析も行った。こちらは国内学会と国際学会において発表し、それらをまとめる形で紀要に投稿した。

その他の活動については、5月に水球日本代表チームのコーチとして、home & away で開催される国別対抗リーグ戦のFINA ワールドリーグアジアオセアニアラウンドに出場した。宿敵中国に対して初戦は5対4で勝利したものの2戦目は4対6で敗れた。1点の得失点差で日本は世界大会に進出することができなかった。1点の重みを痛感する大会であったが、この経験を授業・講義で紹介することで、履修者に「1点の重みと日々の鍛練の大切さ」について生きた情報として伝えることができた。

坂井 利彰 【専任講師（有期）】

著書・論文・執筆・報告書

(執筆)

- ・坂井利彰, “日本リーグの価値を見直そう” 日本文化出版・テニスクラシックブレイク, 2012年4月
- ・坂井利彰, “平均年齢が高くなっている世界男子テニス” 日本文化出版・テニスクラシックブレイク, 2012年6月
- ・坂井利彰, “アメリカ復活を支える1985年世代” 日本文化出版・テニスクラシックブレイク, 2012年9月
- ・坂井利彰, “『早熟型』の錦織圭と『晩成型』の添田豪、日本テニス界はどちらのタイプを育てるべきか” 日本ビジネスプレス, 2012年10月
- ・坂井利彰, “勝ち負けだけではないスポーツの深さを伝えたい、2020年オリンピック・パラリンピックを東京で” 日本ビジネスプレス, 2012年10月
- ・坂井利彰, “世界へ通じる日本なりの『やり方』の模索” 日本文化出版・テニスクラシックブレイク, 2013年2月
- ・坂井利彰, “サポート体制が整った欧州のテニス環境” 日本文化出版・テニスクラシックブレイク, 2013年3月

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団・こどもの体力・基礎運動能力向上事業・世田谷区ジュニアアカデミー（テニス）総合監修及び講師

(研究発表)

- ・坂井利彰, “A Comparative analysis between the ‘Precocious type’ and the ‘Late-blooming type’ among top tennis players.” 日吉リサーチポートフォリオ2012, 2012年11月

(役職)

- ・慶應義塾大学体育会庭球部監督
- ・慶應チャレンジャー国際テニストーナメント（慶應義塾主催）トーナメントディレクター

研究助成等

- ・坂井利彰, “男子テニスプレイヤーにおける世界ランキング到達プロセスの検証” 平成24年度慶應義塾学事振興資金による研究補助, 200千円

森下 愛子 【助教（有期）】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・鳥海崇, 森下愛子, 渡辺一仁, “巻き足動作の強さと巧みさとの関連について～大学水球部員による3次元動作分析から～”, 体育研究紀要, 第52巻1号: pp33-37, 2013年1月.

学会発表等

- ・Takashi Toriumi, Aiko Morishita, Kazuhito Watanabe, “Kinematic analysis of eggbeater kicks with and without fatigue (from male college water polo players)”, International Symposium on 3D Analysis of Human Movement (ISAHM), 2012.7.18~20.
- ・鳥海崇, 森下愛子, 石手靖, 藤本秀樹, “平成24年度総合的水泳教育プログラムの実施報告”, 第16回日本水泳・水中運動学会, 福岡大学, 2012.10.20~21.
- ・鳥海崇, 森下愛子, “大学水球選手における巻き足動作の3次元動作分析”, 第25回日本トレーニング科学会大会, 立命館大学, 2012.12.1~2.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・“未来先導水泳教室～水に親しむ～”, 日吉キャンパス協生館プール, 鳥海崇, 森下愛子, 石手靖, 藤本秀樹, 体育会水泳部, 2012.5.28~6.24, 10.28~11.25 (毎週日曜日).

研究助成等

- ・鳥海崇, 森下愛子, 石手靖, 藤本秀樹, “ロンドンオリンピック水泳選手の身体形態のシーズン変化の測定”, 平成24年度福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金研究補助, 1,120千円.

当年中の研究教育活動の概要

本年度は, 昨年度に引き続き「未来先導水泳教室～水に親しむ」を春・秋と2回開催した. 様々な体験ができるようにと, 個々の希望日・希望コースを選択できるようにするなど, 教室の更なる発展に繋がるよう内容を試行錯誤して取り組んだ.

永田 直也 【助教(有期)】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・永田直也, 長谷川望, “実践力を養うための授業実践の検討”, 東邦学誌, 41: 81-88, 2012.

学会発表等

- ・Naoya Nagata, Kimihiro Inomata, “Effect of difference in shot angle on set shot behavior in basketball”, 17th Annual Congress of the European College of Sport Science, Bruges (Belgium), 2012.7

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

- ・慶應義塾大学学生総合センター主催第27回「スキーとスノーボードの集い」講師, 新潟県妙高市赤倉観光リゾートスキー場, 2013.2.
- ・財団法人日本障害者スポーツ協会日本パラリンピック委員会 平成24年度障害者競技スポーツ医・科学・情報サポート推進事業競技団体サポートスタッフ(心理サポート), 通年.

研究助成等

- ・“バスケットボール授業におけるシュートスキル向上のための練習方法の確立”, 平成24年度慶應義塾学事振興資金, 200千円.

当年中の研究教育活動の概要

当年は, 体育研究所での研究教育活動1年目であった.

研究活動は, 中京大学大学院博士後期課程在学中より行っていた「プリ・パフォーマンス・ルーティン(PPR)」をテーマに, 既に実施した課題熟練者に対する検証データの論文化を進めた. 加えて課題初級者に対しては, 学事振興資金より補助をいただき, PPR 学習過程の検証を進めた. 今後は, 熟練者における実験によって PPR 性質を明らかにするとともに, 初級者における実験によって効率・効果的な学習法を示し, 学習者・競技者のスキル向上を図っていきたい.

教育活動では, 就任1年目であることから, 慶應義塾の教育理念を理解しそれを授業に展開することを中心と心掛けた. まだ十分に理解できていない, 自身の行動・教育活動に表れない部分もあることから, 塾生とともに学ぶことでより良い教育活動の実現に向け励んでいきたい.

2. 所内定例研究会発表会要旨

第1回 4月24日

村山光義・須田芳正・加藤大仁

体育研究所設立50年記念シンポジウム「慶応義塾の体育・スポーツを問い直す」を受けて所内討論会

前年度12月に開催したシンポジウム「慶応義塾の体育・スポーツを問い直す」を受けて、さらに所内での議論を深めるため全体で討論を行った。初めに、シンポジストをつとめた3名が以下のように簡単に自己の問題意識と提案を再度説明した。

加藤大仁君：日本の大学スポーツに関して、アメリカのシステムとの比較から問題を提起。大学の学業・教育の一部として体育会のあり方を考える。体育会がどのような活動をするべきか、そこに我々はどうコミットしていくべきなのか、考えていくべき。また、スポーツ競技者（体育会学生）として入学した者へのサポートをどのようにしていけるかも重要な課題である。

須田君：大学と地域の連携によるスポーツ振興を進めるべき。早稲田大学など一部の大学も取り組んでいるが、慶應義塾において大学発の総合型スポーツクラブを構築したい。大学がHUBとなって地域と学生などのネットワークを広げていくべきである。

村山君：スポーツ基本法やスポーツ立国戦略が政策的に進められ、大学の質保障が問われる時代に、我々はスポーツの価値を知り、高められる学生を育てることに努力すべきである。そのために、教育の内容や手法に関して、非常勤講師等を含めた組織的な教育研究に取り組むべきである。

これを受け、さらに議論を深めるよう意見交換を行い、以下のような意見が出された。

・体育会では、スポーツ医学研究センター等との連携を深めている。体育研究所も連携してできることがあるのではないかと考える。

・体育会の学生の割合は少数である。多くの学生に目を向けたスポーツ振興やサポートも重要である。多くの学生を巻き込んだ活動を行うべきであろう。

・「スポーツ権」に基づきスポーツ振興する体制が明確でない状況がある。単にスポーツを普及・振興してスポーツの価値が高まるか議論すべき。

・情報発信とともに情報の吸収の場も重要であろう。そのため、講演会などを企画し、たとえば「スポーツ基本法」について我々が勉強するなどの取り組みを始めるべきである。

・自分が体育会に関わっている上で、体育研究所の教員、教育をする立場を大切にしている。単にOBであるから指導をしているわけではない。常に、こうした立場を大切にすべきであると考えます。

体育・スポーツに関する頭脳集団としてのアプローチがあるのではないかと。それを目指した事業を組織として打ち立てていくことが重要。

今後さらに具体的な取り組みへ進めていくため、上記のような様々な面に関して今後も議論が必要であることを確認し、討論を終えた。

文責：村山

第2回 5月29日

永田 直也

課題条件の変化がバスケットボール・セットシュートの準備期に与える影響

運動課題の中でも、実施者が課題実施のために十分な時間を持つことができる自己主導課題では、最適な心理・身体状態を獲得する方略として、プリ・パフォーマンス・ルーティン（Pre-performance Routine: PPR）が用いられている。このPPRについて従来の研究では、PPR時間とPPR動作の一定性が課題成功に関連することが示されてきている。

本研究では、バスケットボール・セット

シュートにおいて、シュート距離・シュート角度を変更し、その変化がPPRに及ぼす影響を検討した。本研究の実験参加者は、大学男子バスケットボール部員10名であった。実験参加者は、シュート距離・シュート地点とバックボードが作る角度が異なった9のシュート地点から、セットシュートを各20投実施した。課題実施中には、シュート成功率、PPR動作パターン、PPR時間を記録した。本研究では、繰り返しのある分散分析を用いて統計処理を実施した。その結果、以下の結果が得られた。

- ・シュート成功率は、シュートハンド側にバックボードがある条件が、正面の条件に比べて低い
- ・PPR時間は、シュートハンド側にバックボードがある条件が、正面の条件に比べて短い
- ・シュート距離の延長は、シュート成功率を低下させ、PPR動作数を増加させ、PPR時間を長くする

これらの結果から、課題条件の変化に伴い、PPRが変化することが示された。今後は、対象者の内省に迫ることにより、課題条件の変化が対象者の意識的な準備方略にどのような影響を与えたか検討を進めていく必要がある。

第2回 5月29日

坂井 利彰

男子テニスプレイヤーにおける世界ランキング到達プロセスの検証

◆スポーツにおいて長期目標（世界ランキング100位にランクインなど）を定めて達成するためには短期目標の達成の積み重ねが有効であるといわれているが、日本テニス協会が実施する強化指針では具体的な目標達成ステップは定められておらず、世界的にもそのような例はみられない。テニスは対人スポーツであり、タイムや距離などの記録を伸ばしていくスポーツよりも、長期目標を見据えた

具体的な短期目標を設定しにくいという実情がある。

◆スポーツのパフォーマンスと年齢の関係についての研究は、年齢と適正な練習内容の関係や、加齢による身体能力の低下などというように特定の年齢時について検討するものが多く、選手キャリアの形成を目的とした各年齢時を統括的な視点で俯瞰する研究はこれまでに行われていない

◆世界男子テニスに関する研究において、世界ランキング100位にランクインした年齢との選手の生涯最高ランキングが強く正の相関を示すこと、その要因としてATPツアーの構造が10代で100位にランクインした“早熟”な選手に有利に働いていることを明らかにした。

◆その結果は同時に、10代のランキングや出場大会が後の選手キャリアを決定付けている可能性を示唆している。つまり、各年齢時の短期目標を設定し達成していくという過程は、選手のパフォーマンスを向上させるという目標達成理論における役割だけでなく、ATPツアーの構造に長期目標の達成を阻まれないためにも不可欠であると考えられる。

◆世界ランキングだけでなく選手の成長過程などの指標を活用した研究の内容を多角的に考察した上で、今後の研究に繋げていくことを目指す。

第3回 6月26日

加藤 大仁

スポーツ立国論とその政治的背景

2006年末にスポーツ立国に関する議論が表面化したのを契機に、2010年には文部科学省がスポーツ立国戦略を打ち出した。その後2011年5月末に8会派の共同提案として提出されたスポーツ基本法案は、衆参両院とも全会一致で可決され、1961年に制定されたスポーツ振興法が50年ぶりに全面改定された。

バブルの崩壊以降長期に亘って経済が低迷

したため、多くの人々の関心は、景気回復や社会保障に向けられてきた。常識的に考えれば、このような状況下でスポーツが政策課題に上るとは考えにくい。ではなぜスポーツ立国論が唱えられたのだろうか？

そもそも「立国」とは国力を盛んにすることであることを意味している。従ってスポーツ立国とは、スポーツを通じて国を繁栄させるということであることを意味しているはずである。スポーツ立国論は東京都によるオリンピック招致活動を背景に、スポーツ基本法を制定するという形に収斂していった。その間、2009年夏の政権交代により、スポーツ権に関する議論も散見されるようにはなったが、元々スポーツ立国論はトップスポーツに力点を置いたものであった。経済大国であることへのプライドが失われつつある中、多くの人々の注目を集め、熱狂的な興奮を引き起こすスポーツは、日本国民としてのプライドや、国家へのアイデンティティを涵養し、ひいては政治への信頼や社会の秩序を維持するための資源として捉えられた可能性がある。

第4回 7月24日

山内 賢

バーチャルリアリティを活用した運動指導の発案～PCによる超鏡を用いた運動観察の試案Ⅱ～

超鏡とは、まるで指導者と学習者が同じ空間にいる様な臨場感やVR体験を誘発し、出来栄を目前で反省できる画期的なものである。超鏡は、指導者と学習者の運動動作を映像用ミキサーでクロマキー合成することにより、リアルタイムで観察と比較ができる利点があるものの、「視聴が一回限りのものであり、映像を残して再確認すること」が機能的に欠けている。よって、山内はこの点に関するフォローを創造し、「ミキサーによる一回限りの視聴だけでなく、PCを用いて映像をファイル保存できるPCプログラム」の設計

を試みた。PCの流用は、「単に繰り返し視聴が可能となるだけでなく、さらなるエフェクトや映像加工が出来る」という発想を具体化できるので、PCによる超鏡環境を利用した観察学習は、「運動動作比較の容易さと学習教材としての進化」が期待できる。すなわち、PCによる超鏡環境づくりへの挑戦とする「ICT教育を活用した運動観察学習を創造する」といった未来の第一歩を踏み出すことを意味する。なお、研究会当日は、独自に開発したPCによるクロマキー合成ソフトによるPCを用いた簡便な超鏡環境を作り出して、即興での体験会を行なった。今後の挑戦は、超鏡と2010年にマイクロソフトから販売されたXbox 360向けのゲームデバイスを融合した運動観察システムの開発である。特徴は、コントローラを用いずにジェスチャーや音声認識によって画面操作ができる、直観的で自然な体感型の運動観察システムとなる。具体的には、超鏡とキネクト(Kinect)を融合させる運動観察システムである。Kinectとは、運動力学を意味する「Kinetics」と、繋がりを表す「Connection」を組み合わせた造語である。

第5回 10月30日

村山 光義

体育実技履修学生の自己効力感および社会的スキルの変化に関する基礎的検討(その2)

我々は大学生の体育実技履修有無と一般性自己効力感尺度:GSES(坂野・東條1986)、社会的スキルテスト:KiSS-18(菊池2007)の関係を調査し、GSESは体育実技履修群で有意な増加を示し、KiSS-18は体育実技履修に関わらず向上することを報告した。本研究は、さらに社会的スキルの向上を意図し体育実技内にコミュニケーションの促進をはかるメニューを加え、上記スコアの変化について検討を行った。付加したメニューは「学期初期:アイスブレイクを必ず取り入れたウォーミングアップ」「中盤:グループワークを課題と

した練習」「終盤：クラス全体の相互作用を利用したプログラム」であった。結果分析において各スコアが上級生（特に21歳以上）で予め高いことが示されたため、18-20歳を対象とし、上述のプログラム実施群（P 群）と一般授業群（NP 群）の比較を行った。その結果、GSES と KiSS-18男子において P 群の明らかな向上が示された。本研究では、プログラム介入のみが各スコアの変動に影響したとは言い切れないが、メンタルヘルス維持や社会参加能力向上に体育実技での介入が寄与できる可能性が示されたと考える。

第6回 11月27日

佐藤 正伸

体育・スポーツ学分野における教育の質保証について

文教大学教育学部の佐藤正伸先生にお越しいただきご講演をいただいた。佐藤先生は文教大学教育学部学校教育課程にて「体育・スポーツ指導論の総論構築」などについて研究をされている。近年、大学の質保証が問われ、分野別の教育カリキュラム参照基準が求められる中、体育・スポーツ学分野では、いち早くその取り纏めを行い、この方針の中には「ジェネリック・スキルの獲得」が目指され、教育体育にも通ずるものとなっている。今回はこの参照基準策定に関わった佐藤正伸先生を招き、「体育・スポーツ学分野における教育の質保証について」と題し、「大学教育制度をめぐる動向」「日本学術会議による“参照基準”の作成」「体育・スポーツ学分野の“参照基準”」「体育・スポーツ学の教養教育の新たな可能性」について話をうかがった。佐藤先生は、体育・スポーツ学の教養教育の新たな可能性の創出に向けた今後の課題として、体育・スポーツ学の教養教育で培えるジェネリック・スキル、体育・スポーツ学の教養教育でジェネリック。スキルを培う方法、教養教育としての体育・スポーツ学の学習と専門

教育の連関方法の3つを挙げ、今後の体育教育の在り方等について議論が行われた。

第7回 12月25日

東海林 祐子

体育授業で獲得が期待されるライフスキルの効果と課題について

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの初年次学生を対象とした体育授業で、獲得が期待されるライフスキルの効果と課題について紹介した。まず、1回きりの囚人のジレンマの「自分が損をして相手が得をするくらいなら、自分は裏切った方がよいという合理的な選択に収束する」という事例を紹介し、これが湘南藤沢キャンパスにおける体育授業にも当てはまることを紹介した。そしてこのジレンマを解決するための方法として体育授業の履修者にライフスキルの向上が必要であると提言した。なお、本研究会ではライフスキルを「人生で生じるさまざまな困難や問題を解決していく能力」と定義している。

授業の展開のひとつとして、静的コミュニケーションとしてのブラインドウォークと動的コミュニケーションとしての大縄跳びを比較し、それぞれについて向上するスキルを報告した。また、教員が介入するオンライン体育ノートと教員が介入しない紙ベースでの体育ノートにおいて、それぞれ学生に与える影響について報告した。

最後に大学で学んだことを日常生活にどのように活かしていくのか、ということで大学時代に保証される「運動の楽しさ」や「体力」や「調整力」などについての検討を加えて報告とした。

第8回 1月29日

布施 努

体育授業におけるライフスキルトレーニングの活用に関する検討

スポーツ医科学センター研究員の布施努君

を招聘し、「体育授業におけるライフスキルトレーニングの活用法に関する検討」と題し講演を行った。布施君は、ライフスキルをWHOの定義より広範囲なものとして捉え、特にスポーツによって習得し、他の状況に般化する能力として解説した。講演は、各競技におけるトップコーチの言葉を例にとるなど、ライフスキルの紹介といった概略的なものではあったが、本テーマに馴染みのない参加者にとっても理解しやすい内容であった。また、参加者全員で簡単なワークショップを行い、ライフスキルがどのようなものか、どのようにして自分の能力を般化しているかを体感した。質疑応答では、教養体育においてライフスキルを高める方法、ライフスキル習得を働きかけるための教員資質向上の方法について、より実践的な議論が行われた。その中で、教養体育が、ライフスキルを獲得するために最適な状況の1つであることが確認された。教養体育の意義を考える中で、身体活動を通じたライフスキルの獲得は身体教育の強みであり、これまで継続的に調査を行っている社会スキル・自己効力感に加えて検討する価値のある側面であるといえるだろう。（文責：永田）

第8回 1月29日

森下 愛子

慶應義塾の水泳授業で実施するコンピュータを用いた学習支援の開発について

平成21年から再開された水泳教育についての概説と水泳教育を推進する方策の一つとしての映像を用いた水泳教育プログラムについて紹介した。

水泳教育としては、協生館プールの特性を生かして多様な水泳教育を実施することができる点を紹介し、また授業だけでなく一般市民や一貫教育校の生徒、児童への公開講座の実施について紹介した。ただし、多様な水泳教育を実施すると履修者や参加者の大半は初

めての体験となり、具体的な動き方については見よう見まねで行うしかないというデメリットがある。さらに水泳教育の場合、水中の動作は水上や陸上からは十分視認することができず、そのため見よう見まねをしたくてもその動き方がわからない、という制約があることを紹介した。

この制約を解決する手段として、水中カメラを用いた水泳教育資料としての映像を作成し、その一部を当研究会にて放映した。その一例として水球競技の立ち泳ぎの方法を放映した。通常は視認することが難しく、またイメージもわきにくい複雑な動きである立ち泳ぎのキックについて解説映像と水中動画を視聴することで、参加者からは動作の方法についてイメージを持つことができたという声が聞こえた。

3. 大学体育指導者全国研修会報告

報告者：山内賢・永田直也

期 日：平成24年8月27日(月)～29日(水)

会 場：兵庫県西宮市武庫川女子大学中央
キャンパスおよび周辺施設

1. 研修プログラム

【第1日目】

① 特別講演

「我が国のスポーツ行政の動向～大学の地域・社会貢献～」

② 基調講演

「地域・社会貢献と大学体育」

③ 実技研修

2 コースに分かれた実技指導研修

I-1 アクアセラピー&リハビリテーション

I-2 コオーディネーショントレーニング
の理論と実習

④ 視察研修

甲子園会館(元甲子園ホテル・有形文化財)

【第2日目】

3 コースに分かれた実技指導研修

II-1 ゴルフスイングの理解と指導法

II-2 テニスの指導法

II-3 ラグビーに対する関心・意欲を高める授業と教材

【第3日目】

2 コースに分かれた実技研修

III-1 ジャイロキネシス・トニックの理論と実習

III-2 大学体育におけるフラッグフットボールの授業計画と指導法

2. 研修内容

1) 特別講演

「我が国のスポーツ行政の動向～大学の地域・社会貢献～」

講 師：森岡裕策(文部科学省スポーツ・青年局スポーツ振興課スポーツ振興室長)

平成23年にスポーツ基本法が制定され、平成24年にはスポーツ基本計画が策定された。法律等が整備される中で、日本におけるスポーツの現状を確認し、大学の地域・社会貢献の実態を確認した。大学の地域・社会貢献のひとつとして、総合型地域スポーツクラブとの連携が挙げられるが、現在、何がしかの形で関わっている大学は104校を数える。地域・社会に対してスポーツの人材、環境、設備を提供する機関として、大学の果たす役割は今後も大きくなると考えられる。

2) 基調講演

「地域・社会貢献と大学体育」

講 師：小林勝法(公益社団法人全国大学体育連合専務理事・文教大学)

大学の在り方が変化する中で、地域・社会に対する貢献の方法も変わりつつある。学生に対する教育の提供みならず、地域・社会の人々に対し生涯学習の機会を提供することや、地域・社会の課題を解決する教育研究機能の強化が求められる。社会の変化を柔軟に受け入れる必要性がある一方で、大学としての変わらない役割を保ち続けることの両立が必要であると感じられた。

3) アクアセラピー&リハビリテーション (Aquatic Therapy Rehab Institute：水中運動療法)

講 師：高野明美(フィットネスクラブエフィリゾ鳴尾浜フィットネスクラブアドバイザー、ATRI 認定アクアテックセラピーインストラクター)

適温に管理された水に浮かぶこと、流されることにより癒しを体感した。実技に先立ち、水によって起こる生理的な反応を学び、癒しが起きる理由について理解を深めた。その後、プールに移動して、インストラクターの補助のもとに水に浮くことの練習を行った。実習の最後には、実習生同士で互いに身体をあずけあい、施術者・対象者を体験した。

4) コーディネーショントレーニングの理論と実習

講 師：長野崇（大原学園）

コーディネーショントレーニングとは、身体と神経系統のバランス良い伝達や発育を養い、身体活動における動作の円滑さや運動技術・技能の習得効果を高めることを目的とした一般的なトレーニング方法である。コーディネーショントレーニングの効果は「運動動作の予測、運動の主要局面における動作、運動の終末局面、次の新たな運動と連動させる準備局面の形成という連鎖」を円滑化し、運動の正確と再現性の能力が向上することである。トレーニングの実際とコツは、以下のことに留意して行う。

- ① 目や耳などから得られる情報を五感で認知してその状況を察知
- ② 情報の察知と運動の伝達を学習
- ③ 情報感知後の次に行う行動を判断
- ④ 判断したイメージを運動として具体化するために必要な運動単位の伝達と筋の活動を訓練
- ⑤ 指令に応じた運動をスムーズに実施

コーディネーショントレーニングは、上記の一連の過程を、素早く正確に行えるように、運動を自動化する能力向上を目指すファンダメンタルなものであり、スポーツ種目に関連する専門的で新しい技術・技能をスムーズに習得するための身体能力づくりに貢献するとも考えられている。このトレーニング法は、競技成績の向上を目的としたトレーニングの一部として採用され、様々なトップアスリートが活用している事例も数々見受けられる。実際の講義では、コーディネーショントレーニングに関する事例紹介として、プレゼンテーションと実技が実施された。実技は、変形したスーパーボールのワンバウンズキャッチとキャッチャーにキャッチする前にある課題（手を叩く、床に手をつく、頭を撫でる等…）を課せながら行うもの、「だるまさんが転んだ」の遊びに様々な課題を付加し

たもの（止まる時に人に触れていなければならない、地面にマーカーを置き、止まる時にそれにタッチしなければならない等…）を実際に体験して、受講者全員が楽しんだ。

5) ラグビーに対する関心・意欲を高める授業と教材

講 師：田中充洋（明治大学）、山本巧（防衛大学校）、竹村雅裕（筑波大学）

2019年にラグビーワールドカップが日本で開催される。そこで、大学教育におけるラグビー啓発を目指し、そのための具体的な方略を議論した。議論のでは、現在明治大学において田中先生が実施されている授業を基に、ラグビーの試合のおもしろさを「経験者からの目線」、「未経験者からの目線」で挙げた。最後に、研修のまとめとして授業に活用できる素材案を検討し、受講者でその名の通りスクラムを組み終了した。

6) ジャイロキネシス・トニックの理論と実習

講 師：北島見江（武庫川女子大学）
背骨を中心とした多様な方向への運動で構成されているエクササイズを実施した。ジャイロキネシス・トニック用の機器を用い、円・螺旋・回旋系の運動を行うことで、関節の可動域の拡大や神経伝達回路への刺激を与えた。また、マットと椅子を用い、簡易的なトレーニングも行った。

7) 視察研修

景観形成重要建造物等に指定されている甲子園会館（元甲子園ホテル有形文化財）を視察した。この建造物は、実際に武庫川女子大学の学生が授業等で使用しており、歴史・文化的な建造物とPCを用いた近代的な教育の融合など、興味深い景色が存在していた。

Ⅲ. 教育活動記録

(教育委員会)

Ⅲ－１．授業の実施

１．平成24年度体育科目の履修者統計

１）体育学講義と体育学演習

平成24年度は、体育学講義 9 コマ（前年比同数）、体育学演習 6 コマ（同比同数）を開講した。体育学講義のタイトル及び履修者数を表Ⅲ-1-1に、体育学演習のタイトル及び履修者数を表Ⅲ-1-2に示す。履修者数の合計は体育学講義で132（前年比－15.4%）、体育学演習で21（同比－36.3%）であり、前年度増加した履修者数が再度減少する結果となった。これは、設置時間が一定の曜日・時間に偏っていることも一因となっており、講義名・内容の検討に加えて、単位数の問題も含めた大幅な見直しを図る必要がある。

表Ⅲ-1-1. 平成24年度
体育学講義のタイトル及び担当者

講義名	コマ数			履修者数
	春	秋	計	
スポーツの効用を科学的にみる（スポーツ総論）	1		1	12
スポーツ心理学の世界	1		1	17
スポーツと身体（からだ）の基礎理論	1		1	40
スポーツコーチング概論	1		1	10
スポーツの技と文化を探る		1	1	7
アウトドアを考える		1	1	14
健康と運動の科学		1	1	13
現代社会とスポーツ		1	1	11
チームスポーツコーチング		1	1	8

表Ⅲ-1-2. 平成24年度
体育学演習のタイトル及び担当者

講義名	コマ数			履修者数
	春	秋	計	
ベーシックライフサポート（救急法の基礎）	1		1	9
自然体験演習	1		1	0
からだの動きをはかる（バイオメカニクス）		1	1	4
トレーニング演習		1	1	2
テニスを更に楽しもう		1	1	3
バドミントンを科学する		1	1	3

２）体育実技 A・B

表Ⅲ-1-3に体育実技 A・B（ウィークリースポーツクラス）の担当者とそれぞれの担当種目、表Ⅲ-1-4に体育実技 A・B（ウィークリースポーツクラス）の種目別履修状況を示す。表Ⅲ-1-4に示すように、日吉・三田・芝共立合計で5946名の申込（前年比＋2.1%）に対し、最終的に5666名の履修者（同比－2.7%）となった。定員に対する充足率は、全体で75% となり、前年を 6% 程上回った。申込数が前年度より増加した一方、最終履修者数が前年度より減少したことは、申込が特定の種目に偏り、調整の末に履修出来なかった学生が他種目への変更を希望しなかったことが一因として考えられる。学生が、「特定の種目」の履修を希望するのではなく「体育」の履修を希望するよう、体育科目全体としてのアピールが必要となると考える。平成24年度は、前年度に続き定員の見直しを進めた（700名程の減少、平成22年度より950名程の減少）こともあり、充足率は前年度を上回った。また、三田・芝共立キャンパス設置科目は、合わせた充足率が66% となり前年度を上回る結果となった（三田：前年比＋5%、芝共立：同比＋23%）。特に、芝共立キャンパスにおける増加は、開設2年目となり、学生への周知が進んだことが理由として挙げられる。三田・芝共立キャンパスは、授業時間に比較的ゆとりができる 3－4 年生の履修が見込まれることから、さらなる周知を行うことで履修者の増加を図っていく。

表Ⅲ-1-5に体育実技 A・B（シーズンスポーツクラス）の各種目の担当者及び履修状況を示す。平成24年度は 8 種目（前年同数）を開講した。履修者数は218名（前年比＋5%）で、充足率は64%（同比＋5%）であった。特に、馬術（履修者数前年比＋39%）、山岳（同比＋266%）、アウトドアレクリエーション（同比＋48%）、スキー（同比＋68%）が大きく増加した。一方で、ヨット（履修者数前年度

表Ⅲ-1-3. 平成24年度 体育実技 A・B（ウィークリースポーツクラス）担当者及び担当種目

	担当者	種 目
教 授	近 藤 明 彦	ウォーキングエクササイズ, ジョギング, 陸上競技, 体力UPコース
"	佐 々 木 玲 子	エアロビクス
"	植 田 史 生	剣道
"	綿 田 博 人	野球, ゴルフ
"	石 手 靖	バレーボール
"	村 山 光 義	フライングディスク, ニュースポーツ (A・B), 卓球
准 教 授	山 内 賢	ハンドボール, 体力UPコース
"	吉 田 泰 将	剣道
"	加 藤 大 仁	バスケットボール
"	板 垣 悦 子	
"	加 藤 幸 司	バドミントン, ニュースポーツ (A)
"	須 田 芳 正	サッカー, フットサル
"	野 口 和 行	バレーボール, ニュースポーツ (A), フライングディスク (B)
"	村 松 憲	テニス
専 任 講 師	鳥 海 崇	水泳, 水球
"	奥 山 静 代	エアロビクス, ボディメイクエクササイズ
専任講師(有期)	坂 井 利 彰	テニス
助 教 (有期)	森 下 愛 子	水泳
"	永 田 直 也	バスケットボール
非 常 勤 講 師	秋 武 寛	体力UPコース
"	朝 飛 大	柔道
"	岩 崎 陸	サッカー, フットサル
"	織 戸 晃	軟式野球
"	勝 又 正 浩	ゴルフ
"	木 林 弥 生	卓球
"	木 塚 孝 幸	バスケットボール
"	久 保 田 正 美	空手
"	河 乃 建 仁	気功
"	佐 藤 達 也	アーチェリー
"	坂 本 純 子	テニス
"	島 田 桂 太 郎	ボクシング
"	首 藤 聡 史	器械体操
"	杉 本 亮 子	ボディーコンディショニング (ヨガ&ピラティス)
"	鷲 見 全 弘	水泳
"	竹 村 りょうこ	テニス
"	田 中 雅 子	エアロビクス
"	田 中 由 美 子	フェンシング
"	円 谷 洋 一	弓術
"	富 田 賢	サッカー
"	藤 平 信 一	合気道
"	原 莊 太 郎	テニス
"	平 井 克 英	バドミントン
"	平 野 泰 宏	バドミントン
"	弘 卓 三	体力UPコース
"	前 田 雅 志	ソフトテニス
"	松 本 健 太 郎	テニス
"	松 山 保 幸	自動車
"	森 田 重 貴	バスケットボール
"	森 本 美 行	サッカー
"	矢 作 拓 也	バレーボール
"	渡 辺 一 仁	水泳
"	綿 引 亮 太	バレーボール

表Ⅲ-1-4. 平成24年度 体育実技A・B（ウィークリースポーツクラス）種目別履修状況

地区	科 目 名	定 員	登録数	倍 率	最 終 履修者数	充足率
日 吉 地 区 開 設	アーチェリー	80	107	1.34	83	104%
	ウォーキングエクササイズ	120	30	0.25	32	27%
	エアロビクス	400	300	0.75	344	86%
	ゴルフ	240	326	1.36	238	99%
	サッカー	480	335	0.70	387	81%
	ジョギング	60	7	0.12	10	17%
	ソフトテニス	40	8	0.20	10	25%
	ボディコンディショニング(ヨガ&ピラティス)	200	502	2.51	198	99%
	テニス	800	677	0.85	719	90%
	水泳	400	209	0.52	240	60%
	水球	80	21	0.26	26	33%
	ニュースポーツ(A・B)	150	42	0.28	49	33%
	バスケットボール	800	546	0.68	545	68%
	バドミントン	480	512	1.07	465	97%
	バレーボール(A)	720	274	0.38	344	48%
	ハンドボール	120	60	0.50	75	63%
	フェンシング	40	16	0.40	18	45%
	フットサル	300	353	1.18	295	98%
	フライングディスク(A・B)	100	46	0.46	60	60%
	ボクシング	120	92	0.77	100	83%
	剣道	200	53	0.27	56	28%
	合気道	60	45	0.75	52	87%
	自動車	120	220	1.83	117	98%
	柔道	120	25	0.21	25	21%
	空手	75	34	0.45	40	53%
	体力UPコース	440	235	0.53	269	61%
	卓球	232	236	1.02	222	96%
	野球	60	21	0.35	23	38%
	軟式野球	60	68	1.13	68	113%
	陸上競技	40	6	0.15	6	15%
	器械体操	20	21	1.05	21	105%
	気功	80	110	1.38	80	100%
	日 吉 合 計	7237	5537	0.77	5217	72%
三 田 地 区 開 設	テニス	160	110	0.69	155	97%
	バレーボール	100	25	0.25	25	25%
	弓術	80	104	1.30	98	123%
	剣道	160	26	0.16	26	16%
	合気道	60	65	1.08	65	108%
	三 田 合 計	560	330	0.59	369	66%
芝 共 立 地 区 開 設	ボディメイクエクササイズ	40	38	0.95	38	95%
	インドアスポーツ	40	24	0.60	24	60%
	卓球	40	17	0.43	18	45%
	芝 共 立 合 計	120	79	0.66	80	67%
全 体 合 計		7917	5946	0.75	5666	72%

比－6%)、スケート（同比－8%）、水泳（充足率24%）と履修者数が伸び悩む結果となった。この点については、科目名や実習内容の

再検討も含め、シーズンスポーツの周知を行っていく必要がある。

表Ⅲ-1-5. 平成24年度 体育実技 A・B（シーズンスポーツクラス）担当者及び履修状況

	月	科 目 名	担当者	定員	登録数	倍率	最終履修者数	充足率
春 学 期	8月	弓術	齋藤 隆男	開講せず				
		水泳（オープンウォータースイミング）	鷲見 全弘	25	5	0.20	6	24%
		馬術（Ｂ）	鈴木 久	32	39	1.22	39	122%
		山岳「Nature & Trail」（Ｂ）	丸 誠一郎	20	15	0.75	16	80%
		ヨット（Ｂ）	金子 隆司	25	15	0.60	16	64%
秋 学 期	8 ― 9月	アウトドアレクリエーション（Ｂ）	野口 和行	50	37	0.74	43	86%
		ビーチバレー（Ｂ）	石手 靖	30	14	0.47	16	53%
	2月	スキー（Ｂ）	吉田 久男	120	50	0.42	57	48%
		スケート（Ｂ）	小山 正	40	16	0.40	25	63%
計				342	191	0.59	218	64%

2. 授業評価の実施

体育研究所では、体育実技を履修した学生による授業評価を長年継続的に実施し、より適切な授業展開のための基礎資料を得て、授業改善に取り組んでいる。専任教員に加え、非常勤講師（ウィークリースポーツ）においても平成23年度秋学期より web 方式によるアンケートの回収を継続している。実技指導員（シーズンスポーツ）についてはこれまで通り紙方式によるアンケートを実施した。

実施に際してはこれまでと同様に、授業終了3週間前より入力可能として、回答人数を把握することにより、未実施者に対しては残りの授業で実施を促した。

以下、web 方式、紙面方式ともに同一に扱い集計を行った。表Ⅲ-1-6はアンケート回答者数、表Ⅲ-1-7にはアンケート調査用紙の質問項目を示した。アンケートの各質問項目には「強くそう思う」（5点）、「そう思う」（4点）、「どちらとも言えない」（3点）、「そう思わない」（2点）、「全くそう思わない」（1点）の5段階で回答させ、得点化して評価した。Web 方式によるアンケートでは、回答の時間に制限がないため、自由記述に意見を書きやすいというメリットがあるが、回答率は紙面方式より低下しているのが現状である。引き続き、各教員が積極的にアンケートへの回答を促す努力を続けなければならない。

表Ⅲ-1-6. アンケート回答者数

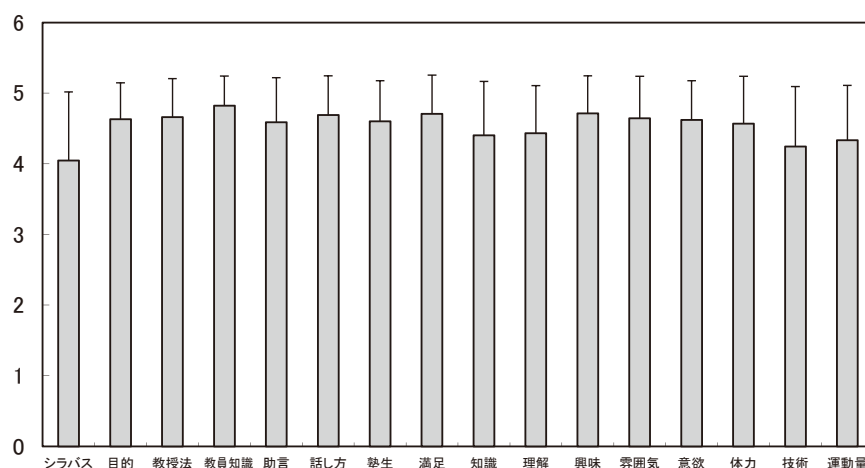
	アンケート総数
春学期ウィークリー	585
秋学期ウィークリー	485
春学期講義・演習	30
秋学期講義・演習	13
シーズン	146

春・秋の学期間に差はほとんどなく、同じ傾向が得られている。全般に4点以上の肯定的評価がほとんどであった。平均値で最も高い評価となったものは、「教員はこの授業についての十分な知識を持っていた」（春：4.8±0.4、秋：4.8±0.4）であり、「指導・教授方法」、「話し方」等教員に対する評価に加え、「満足度」も高い値を示した。

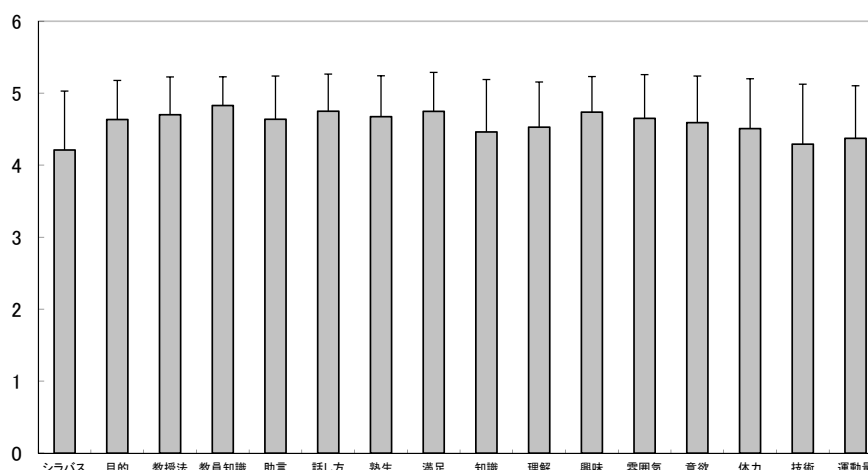
一方、最も平均点が低いものは「自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した」であった（春：4.0±1.0、秋：4.2±0.8）。このことは、曜日や時限による制約から単に時間割を埋めるために履修していたり、第1希望の種目に抽選漏れした学生が他の種目を履修していたりすることが考えられる。

1) 体育実技ウィークリー種目の授業評価

体育実技ウィークリー種目における質問項目別5段階評価（平均値±標準偏差）を図Ⅲ-1-1（春学期）、図Ⅲ-1-2（秋学期）に示した。結果をみるとほぼ例年と同様の傾向であり、以下のようにまとめられる。



図Ⅲ-1-1. 授業に関する質問項目別の5段階評価（春学期ウィークリー全体平均）



図Ⅲ-1-2. 授業に関する質問項目別の5段階評価（秋学期ウィークリー全体平均）

表Ⅲ-1-7. アンケート調査用紙（表裏）

平成24年度体育科目（講義・演習・実技）履修者アンケート

慶應義塾大学体育研究所

このアンケートは、FD「Faculty Development：大学教員の資質開発（授業内容、方法の改善・向上）」をめざして行われるものです。皆さんの意見を次年度以降の授業に反映させるとともに、今後の塾内のスポーツ振興に対して役立てる目的以外には用いませんので率直な意見をお聞かせください

・科目名を記入してください _____

・担当教員名を記入してください _____

・学期に○印 （ 春 ・ 秋 ）

・曜日時限に○印 （ 月・火・水・木・金 ）曜、（ 1・2・3・4・5 ）限

・実施地区に○印 日吉 ・ 三田

● 受講した授業についての以下の質問に関して、

5 _____ 4 _____ 3 _____ 2 _____ 1
 強く思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない
 の5つの中から一番当てはまる番号に○印を付けてください。

履修者全員（講義・演習・実技）回答

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| 1. 自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 2. 教員は授業の目的および目標をわかりやすく説明した | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 3. 教員の指導・教授方法は適切であった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 4. 教員はこの授業についての十分な知識を持っていた | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 5. 教員は授業への学生の参加を促し、適切に助言した | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 6. 教員の話し方は聞き取りやすかった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 7. この授業は塾生にとってふさわしいものだった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 8. この授業は自分にとって満足出来るものであった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 9. この授業によって知識を深めることができた | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 10. この授業の目的・ねらいを十分理解できた | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 11. この授業の内容は興味のあるものだった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 12. このクラスの雰囲気は良好であった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 13. 自分はこの授業に意欲的に取り組んだ | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |

実技履修者のみ回答

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 14. この授業は健康や体力の向上に役立った | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 15. この授業によって運動技術が向上した | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 16. 運動量は適切であった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |

講義・演習履修者のみ回答

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| 17. この授業では配布資料やプレゼンテーションが適切であった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
|---------------------------------|-------------------|

裏面へ続きます

●自由記述 1

この授業を履修した理由・動機について

●自由記述 2

授業内容について
よかったこと：

改善を要すること：

●自由記述 3

教員について
よかったこと：

改善を要すること：

●自由記述 4

施設および機器・用具等について
よかったこと：

改善を要すること：

●自由記述 5

体育科目全般に関する意見および提案

ご協力ありがとうございました。

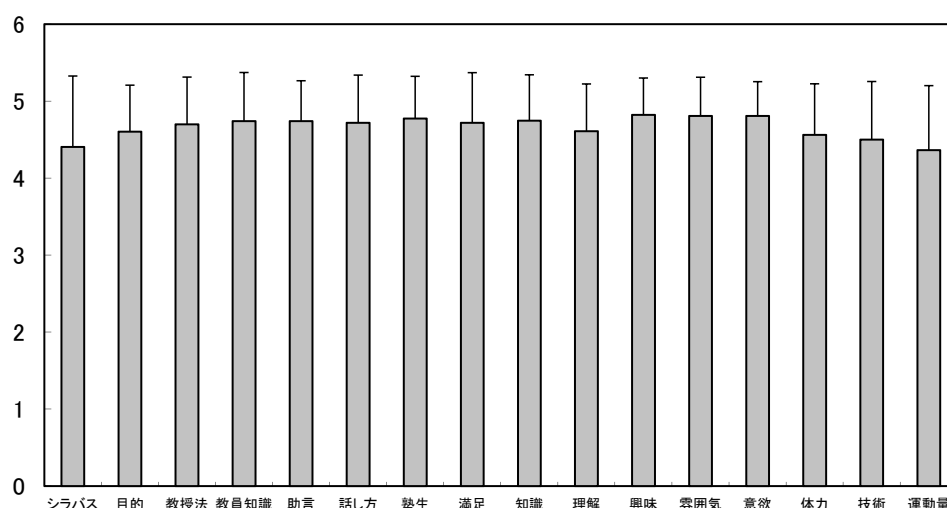
表Ⅲ-1-8、9には春学期・秋学期の種目別の5段階評価を示した。その結果「運動技術の向上」、「運動量の適切さ」などが低い値を示し、合気道、気功などが3点台であった。種目の違いにより運動量や技術向上の難易度は異なるため、そのことを教員が理解させながら履修者に伝え、運動量を確保する必要があると考えられる。

2) シーズンスポーツ種目の授業評価

シーズンスポーツ種目における5段階評価（平均値±標準偏差）を図Ⅲ-1-3に、また

種目別の5段階評価を表Ⅲ-1-10に示した。

すべての項目とも平均値で4点をこえる肯定的評価が得られている。特に「授業の内容は興味あるものだった」「クラスの雰囲気は良好だった」「自分はこの授業に意欲的に取り組んだ」などが高い得点を示し、合宿などをとまなうシーズンスポーツの特徴が出た結果であると考えられる。一方、「自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した」は他の項目と比較して低い値を示し、この傾向はウィークリースポーツと同様の結果であった。シーズンスポーツは4月のガイド



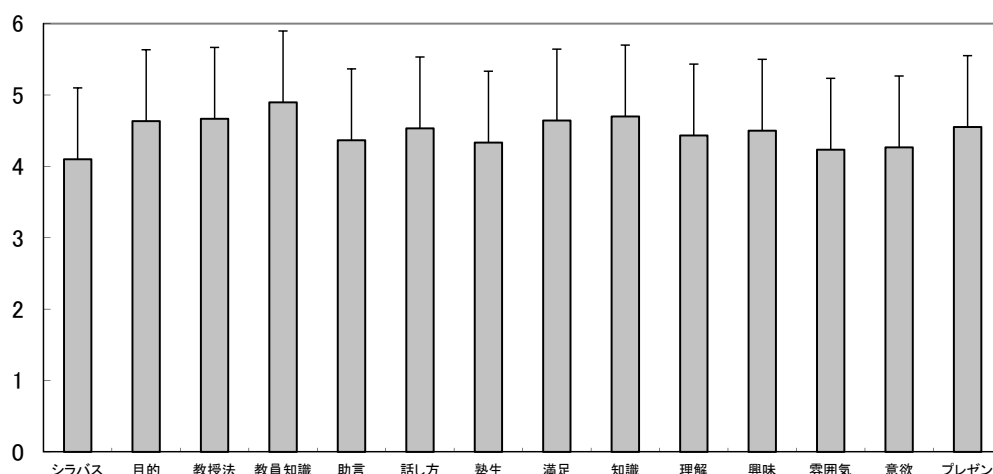
図Ⅲ-1-3. 授業に関する質問項目別の5段階評価（シーズンスポーツ全体平均）

ンス期間中に個別ガイダンスを行わないため、シラバスの重要性はウィークリー種目以上に高いと考えられる。今後もシラバスをより一層充実させる努力が必要であると考えられる。

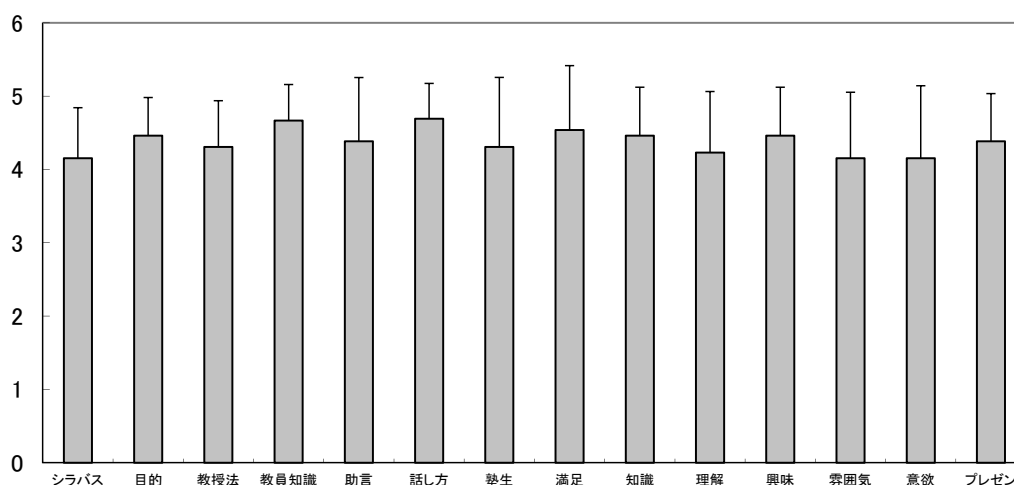
3) 講義・演習科目の授業評価

講義・演習科目の授業評価についての結果を図Ⅲ-1-4（春学期）、図Ⅲ-1-5（秋学期）に示した。すべての項目とも平均値で4点をこえる肯定的評価が得られている。特に、「教員はこの授業についての十分な知識を持って

いた」は高値を示し（春： 4.9 ± 0.3 、秋： 4.7 ± 0.5 ）、「この授業によって知識を深めることができた」も比較的高い値を示した。また、「このクラスの雰囲気は良好であった」「自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した」の項目は低値を示す結果であった。これらのことは、やや教員側の一方的な授業になりがちであるのかもしれない。学生とのコミュニケーションや、学生が授業に意欲的に取り組めるような授業づくりが今後の課題と考えられる。



図Ⅲ-1-4. 授業に関する質問項目別の5段階評価（春学期講義・演習の全体平均）



図Ⅲ-1-5. 授業に関する質問項目別の5段階評価（秋学期講義・演習の全体平均）

表Ⅲ-1-8. 種目別の5段階評価集計一覧（春学期ウィークリー）

種目名	人数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量
アーチェリー	3	平均	4.7	5.0	5.0	5.0	4.0	4.7	4.7	5.0	4.7	3.7	4.7	5.0	4.3	4.0	3.7	4.0
		標準偏差	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.6	0.6	0.6	0.0	0.6	1.0	1.2	1.0
合気道	9	平均	4.1	4.9	4.6	5.0	4.6	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.9	4.8	4.8	4.2	4.2	3.8
		標準偏差	0.8	0.3	1.0	0.0	0.7	0.3	0.4	0.5	0.5	0.7	0.3	0.4	0.4	1.1	1.1	1.0
インドアスポーツ	6	平均	4.5	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
		標準偏差	0.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウォーキングエクササイズ	6	平均	4.3	4.8	4.8	4.7	4.8	4.5	4.8	5.0	4.3	4.5	4.5	5.0	4.7	5.0	4.0	4.8
		標準偏差	0.5	0.4	0.4	0.8	0.4	0.5	0.4	0.0	0.5	0.5	0.5	0.0	0.5	0.0	0.9	0.4
エアロビクス	58	平均	3.9	4.7	4.8	4.8	4.8	4.9	4.6	4.7	4.4	4.5	4.7	4.6	4.6	4.6	4.0	4.5
		標準偏差	1.1	0.5	0.4	0.4	0.4	0.3	0.7	0.4	0.7	0.6	0.5	0.5	0.6	0.5	0.9	0.6
気功	5	平均	3.8	4.4	4.8	5.0	4.4	3.8	4.2	4.8	4.5	4.6	4.8	4.6	4.4	4.0	2.8	3.8
		標準偏差	1.3	0.5	0.4	0.0	0.5	0.8	0.8	0.5	0.6	0.5	0.4	0.5	0.5	1.0	0.8	1.3
弓術	15	平均	4.3	4.3	4.5	4.9	4.5	4.6	4.5	4.7	4.7	4.3	4.8	4.5	4.5	4.2	4.3	4.1
		標準偏差	0.7	0.7	0.5	0.4	0.5	0.8	0.6	0.5	0.5	0.6	0.4	0.6	0.5	0.6	0.7	0.7
空手	12	平均	3.9	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.4	4.8	4.5	4.3	4.9	4.6	4.7	4.3	3.9	3.8
		標準偏差	0.9	0.5	0.3	0.3	0.5	0.4	0.7	0.4	0.5	0.7	0.3	0.5	0.7	1.2	0.9	1.2
剣道	20	平均	4.5	4.8	4.9	5.0	4.8	4.9	4.8	4.9	4.7	4.6	4.9	4.7	4.4	4.5	4.3	4.5
		標準偏差	0.5	0.4	0.4	0.2	0.4	0.4	0.5	0.3	0.5	0.5	0.3	0.7	0.7	0.6	0.7	0.5
ゴルフ	18	平均	4.1	4.4	4.4	4.8	4.1	4.6	4.7	4.8	4.4	4.2	4.7	4.2	4.6	4.0	4.2	4.1
		標準偏差	1.0	0.5	0.6	0.4	0.9	0.5	0.5	0.4	0.6	0.6	0.5	0.8	0.5	0.7	0.8	0.9
サッカー	25	平均	4.3	4.7	4.7	4.9	4.7	4.8	4.7	4.6	4.4	4.6	4.7	4.9	4.8	4.6	4.4	4.6
		標準偏差	0.9	0.5	0.6	0.4	0.6	0.4	0.6	0.7	0.8	0.5	0.5	0.3	0.4	0.8	0.8	0.7
自動車	7	平均	4.7	4.7	4.6	5.0	4.7	4.1	4.6	4.7	4.7	4.7	4.9	4.6	4.7	3.3	4.4	3.0
		標準偏差	0.5	0.5	0.8	0.0	0.5	0.9	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.5	0.5	1.4	0.9	1.1
水泳	37	平均	4.1	4.5	4.7	4.8	4.4	4.7	4.5	4.8	4.4	4.4	4.8	4.8	4.6	4.6	4.1	4.2
		標準偏差	0.9	0.6	0.5	0.4	0.6	0.7	0.5	0.4	0.7	0.6	0.4	0.4	0.6	0.5	0.8	0.6
水球	0	平均																
		標準偏差																
体力U P コース	42	平均	4.1	4.7	4.7	4.7	4.6	4.7	4.6	4.7	4.2	4.6	4.5	4.4	4.5	4.8	4.0	4.3
		標準偏差	0.9	0.5	0.5	0.6	0.7	0.5	0.5	0.6	0.9	0.5	0.6	0.7	0.5	0.4	0.9	0.7
卓球	21	平均	3.7	4.8	4.5	4.8	4.5	4.7	4.7	4.7	4.4	4.5	4.7	4.6	4.5	4.4	4.2	4.3
		標準偏差	1.2	0.4	0.8	0.4	0.7	0.5	0.5	0.7	0.8	0.5	0.5	0.6	0.6	0.5	0.8	0.6
テニス	49	平均	3.9	4.7	4.7	5.0	4.6	4.8	4.7	4.8	4.6	4.6	4.8	4.5	4.7	4.6	4.6	4.3
		標準偏差	1.0	0.4	0.4	0.1	0.6	0.5	0.5	0.4	0.6	0.5	0.4	0.6	0.5	0.6	0.6	0.7
軟式野球	6	平均	4.0	4.3	3.8	4.5	4.5	4.2	4.3	3.8	3.0	3.8	4.3	4.0	4.2	4.0	3.7	3.7
		標準偏差	0.9	0.5	1.2	0.8	0.5	1.2	0.8	1.6	1.4	1.0	1.2	1.5	1.2	1.5	1.5	1.2
ニュースポーツ	12	平均	4.1	4.7	4.9	4.8	4.9	4.8	4.7	4.9	4.6	4.3	4.9	5.0	4.8	4.2	3.8	4.4
		標準偏差	0.5	0.5	0.3	0.5	0.3	0.6	0.7	0.3	0.5	0.6	0.3	0.0	0.4	0.9	1.0	0.9
バスケットボール	74	平均	3.8	4.6	4.5	4.8	4.6	4.5	4.6	4.7	4.3	4.6	4.8	4.8	4.7	4.9	4.6	4.5
		標準偏差	1.2	0.5	0.6	0.4	0.5	0.6	0.5	0.6	0.9	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	0.6	0.8
バドミントン	75	平均	4.1	4.6	4.6	4.8	4.3	4.6	4.5	4.6	4.4	4.2	4.6	4.7	4.6	4.6	4.4	4.4
		標準偏差	0.9	0.5	0.5	0.4	0.9	0.6	0.6	0.6	0.8	0.9	0.8	0.6	0.6	0.7	0.8	0.8
バレーボール	31	平均	3.9	4.4	4.5	4.6	4.5	4.7	4.6	4.6	4.1	4.3	4.7	4.7	4.5	4.5	4.3	4.4
		標準偏差	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.6	0.7	0.8	0.7	0.5	0.5	0.7	0.8	0.9	0.8
ハンドボール	13	平均	4.0	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.5	4.7	4.6	4.5	4.7	4.8	4.8	4.7	4.2	4.3
		標準偏差	1.1	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	0.7	0.6	0.5	0.9	0.7	0.6	0.4	0.5	0.7	0.9
フェンシング	0	平均																
		標準偏差																
フットサル	4	平均	4.5	4.5	4.5	4.0	4.8	4.8	4.5	4.5	3.8	4.3	4.5	4.8	4.5	4.8	3.8	4.0
		標準偏差	0.6	1.0	1.0	0.8	0.5	0.5	1.0	1.0	1.3	1.0	1.0	0.5	0.6	0.5	1.3	0.8
フライングディスク	11	平均	3.8	4.5	4.6	4.5	4.6	4.8	4.6	4.6	4.2	4.0	4.5	4.3	4.5	4.8	4.0	4.3
		標準偏差	1.1	0.5	0.7	0.5	0.5	0.4	0.7	0.5	1.0	0.9	0.7	0.8	0.5	0.4	1.2	0.8
ボクシング	10	平均	4.0	4.9	4.8	4.8	4.7	4.9	4.7	4.8	4.9	4.4	4.8	4.8	4.7	4.9	4.8	4.6
		標準偏差	1.2	0.3	0.4	0.4	0.5	0.3	0.7	0.4	0.3	1.0	0.4	0.4	0.5	0.3	0.4	0.5
ボディコンディショニング	8	平均	4.1	4.9	4.8	5.0	4.6	4.9	4.8	4.5	4.4	4.1	4.5	4.1	4.4	4.5	4.0	4.4
		標準偏差	1.4	0.4	0.5	0.0	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5	0.6	0.5	1.0	0.7	0.8	0.8	0.7
ボディメイクエクササイズ	3	平均	4.3	4.7	4.7	4.7	4.7	5.0	5.0	4.7	4.7	4.7	4.7	5.0	4.7	5.0	4.3	4.7
		標準偏差	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.0	0.0	0.6	0.6	0.6	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6	0.6
野球	5	平均	4.6	4.4	4.8	4.8	4.6	4.8	4.6	4.8	4.6	4.4	5.0	4.6	5.0	5.0	4.8	4.6
		標準偏差	0.5	0.9	0.4	0.4	0.5	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.4	0.5
陸上競技	0	平均																
		標準偏差																

表Ⅲ-1-9. 種目別の5段階評価集計一覧（秋学期ウィークリー）

種目名	人数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量
アーチェリー	0	平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合気道	12	平均	4.4	4.7	4.8	5.0	4.8	5.0	4.8	4.5	4.4	4.3	4.8	4.8	4.3	4.3	4.1	3.8
		標準偏差	0.7	0.5	0.5	0.0	0.4	0.0	0.5	0.7	0.5	0.5	0.4	0.5	0.7	1.1	1.2	0.9
インドアスポーツ	2	平均	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
		標準偏差	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウォーキングエクササイズ	1	平均	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
エアロビクス	50	平均	4.3	4.8	4.8	4.9	4.7	4.9	4.6	4.8	4.4	4.6	4.7	4.6	4.6	4.5	3.9	4.4
		標準偏差	0.6	0.5	0.4	0.3	0.5	0.3	0.6	0.4	0.7	0.5	0.5	0.5	0.6	0.5	0.8	0.7
気功	8	平均	4.4	4.9	4.9	4.9	4.4	4.3	4.5	4.9	4.8	4.5	4.8	4.5	4.4	4.4	3.4	3.8
		標準偏差	0.5	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	0.7	0.9	0.5
弓術	13	平均	4.6	4.8	4.8	5.0	4.8	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.9	4.8	4.6	4.4	4.4	4.4
		標準偏差	0.5	0.4	0.4	0.0	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.7	0.3	0.4	0.9	0.8	1.0	0.7
空手	3	平均	4.0	4.7	4.7	4.7	4.3	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.0	4.3	4.3	4.3
		標準偏差	1.0	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.0	0.6	0.6	0.6
器械体操	3	平均	4.7	4.7	4.0	4.7	4.3	4.7	4.7	4.3	4.3	4.7	4.7	4.7	4.3	4.7	4.3	4.3
		標準偏差	0.6	0.6	0.0	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
剣道	19	平均	4.2	4.4	4.7	5.0	4.5	4.6	4.8	4.8	4.7	4.5	4.9	4.8	4.4	4.4	4.2	3.9
		標準偏差	0.6	0.5	0.5	0.0	0.6	0.8	0.4	0.4	0.5	0.5	0.3	0.4	0.5	0.8	0.7	0.7
ゴルフ	15	平均	4.3	4.3	4.4	4.7	4.1	4.8	4.9	4.9	4.5	4.5	4.7	4.6	4.9	4.3	4.5	4.5
		標準偏差	0.7	0.5	0.5	0.5	0.6	0.4	0.4	0.4	0.6	0.5	0.5	0.5	0.3	0.6	0.8	0.5
サッカー	43	平均	4.1	4.4	4.4	4.7	4.6	4.7	4.6	4.5	4.0	4.4	4.7	4.6	4.5	4.4	4.1	4.2
		標準偏差	0.8	0.7	0.8	0.5	0.7	0.5	0.6	0.8	1.0	0.8	0.5	0.6	0.8	0.8	0.9	0.9
自動車	4	平均	4.5	4.8	4.8	4.5	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.8	4.5	3.0	4.3	4.5
		標準偏差	1.0	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.5	0.5	1.0	1.6	1.5	0.6
柔道	3	平均	3.3	5.0	5.0	4.3	5.0	5.0	3.7	4.7	4.7	5.0	4.7	4.7	4.7	3.3	5.0	3.7
		標準偏差	1.5	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	1.2	0.6	0.6	0.0	0.6	0.6	0.6	1.2	0.0	0.6
ジョギング	2	平均	4.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.0	4.5	4.5	4.5	4.5	5.0	4.0	5.0	4.0	4.0
		標準偏差	1.4	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	1.4	0.7	0.7	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0
水泳	19	平均	4.2	4.4	4.6	4.8	4.5	4.7	4.6	4.8	4.3	4.5	4.7	4.6	4.6	4.7	4.3	4.5
		標準偏差	0.5	0.7	0.6	0.4	0.6	0.5	0.5	0.5	0.7	0.7	0.5	0.7	0.6	0.5	0.7	0.6
水球	2	平均	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
		標準偏差	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ソフトテニス	0	平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
体力UP コース	22	平均	4.4	4.7	4.6	4.7	4.4	4.6	4.5	4.7	4.4	4.5	4.6	4.4	4.5	4.5	4.2	4.5
		標準偏差	0.5	0.5	0.6	0.5	0.8	0.6	0.5	0.5	0.7	0.6	0.6	0.9	0.8	0.5	0.8	0.6
卓球	36	平均	4.0	4.6	4.5	4.7	4.5	4.4	4.6	4.6	4.4	4.4	4.6	4.5	4.4	4.2	4.3	4.2
		標準偏差	1.0	0.5	0.6	0.4	0.7	0.8	0.6	0.8	0.8	0.7	0.5	0.7	0.8	0.8	0.9	0.7
テニス	25	平均	4.1	4.7	4.8	4.9	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.8	4.5	4.5	4.6	4.6	4.5
		標準偏差	1.0	0.6	0.4	0.3	0.5	0.3	0.3	0.4	0.5	0.5	0.4	0.6	0.7	0.5	0.6	0.7
軟式野球	5	平均	4.4	4.2	4.4	4.8	4.6	4.4	4.2	4.2	4.0	4.2	4.2	4.0	4.2	4.0	3.6	4.2
		標準偏差	0.5	0.8	1.3	0.4	0.9	0.5	1.3	1.8	1.7	0.8	1.3	1.7	1.3	1.2	1.7	0.8
ニュースポーツ	11	平均	4.4	4.6	4.9	4.9	4.9	4.8	4.4	4.7	4.3	4.1	4.8	4.9	4.6	3.8	3.7	3.9
		標準偏差	0.7	0.5	0.3	0.3	0.3	0.4	0.7	0.5	0.6	0.9	0.4	0.3	0.5	0.9	1.0	1.1
バスケットボール	76	平均	4.5	4.8	4.8	4.9	4.8	4.9	4.8	4.9	4.6	4.7	4.8	4.9	4.8	4.8	4.6	4.7
		標準偏差	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.6	0.6	0.4	0.3	0.4	0.4	0.6	0.6
バドミントン	41	平均	4.0	4.6	4.7	4.9	4.5	4.6	4.5	4.7	4.5	4.3	4.6	4.5	4.5	4.4	4.4	4.2
		標準偏差	0.9	0.5	0.4	0.4	0.7	0.7	0.8	0.5	0.5	0.7	0.5	0.7	0.6	0.6	0.7	0.7
バレーボール	19	平均	3.9	4.5	4.7	4.8	4.7	4.7	4.9	4.8	4.5	4.7	4.9	4.9	4.8	4.6	4.5	4.5
		標準偏差	1.1	0.6	0.5	0.4	0.6	0.6	0.2	0.5	1.0	0.6	0.3	0.5	0.7	0.7	0.8	0.8
ハンドボール	8	平均	4.5	4.7	4.9	4.9	4.9	5.0	4.9	4.9	5.0	4.8	4.8	4.4	4.6	4.6	4.4	4.8
		標準偏差	0.8	0.5	0.4	0.4	0.4	0.0	0.4	0.4	0.0	0.5	0.7	1.0	0.5	0.7	1.1	0.5
フェンシング	2	平均	4.0	4.5	4.5	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5
		標準偏差	0.0	0.7	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7
フットサル	22	平均	4.0	4.7	4.7	5.0	5.0	4.9	4.8	4.9	4.3	4.5	4.9	4.8	4.6	4.9	4.5	4.7
		標準偏差	1.1	0.5	0.6	0.2	0.2	0.4	0.5	0.3	0.8	0.6	0.3	0.4	0.6	0.3	0.7	0.6
フライングディスク	8	平均	3.8	4.0	4.5	4.5	4.5	4.9	4.6	4.3	4.1	4.3	4.4	4.4	4.1	4.3	4.0	4.3
		標準偏差	1.3	0.8	0.5	0.5	0.8	0.4	0.7	0.7	0.8	0.9	0.7	1.1	1.1	0.7	0.8	0.8
ボクシング	7	平均	4.1	5.0	4.9	4.7	5.0	5.0	4.4	5.0	5.0	4.6	5.0	4.4	5.0	5.0	4.9	4.7
		標準偏差	1.5	0.0	0.4	0.8	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.4	0.8
ボディコンディショニング	4	平均	4.3	4.5	5.0	4.8	4.0	5.0	4.5	5.0	4.5	4.5	4.5	5.0	5.0	4.8	4.0	4.8
		標準偏差	0.5	0.6	0.0	0.5	1.2	0.0	0.6	0.0	1.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.5	1.2	0.5
ボディメイクエクササイズ	0	平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
野球	0	平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表Ⅲ-1-10. 種目別の5段階評価集計一覧（シーズンスポーツ）

種目名	人数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量
オープンウォータースイミング	5	平均	4.2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.6
		標準偏差	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.5
山岳「Nature & Trail」	12	平均	4.9	4.8	4.9	5.0	4.9	4.9	5.0	5.0	4.9	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.3
		標準偏差	0.3	0.5	0.3	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.3	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.9
馬術	27	平均	4.6	4.5	4.4	4.7	4.6	4.5	4.8	4.6	4.7	4.5	4.9	4.7	4.9	4.3	4.3	3.9
		標準偏差	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6	0.8	0.4	0.6	0.5	0.5	0.3	0.4	0.4	0.7	0.6	0.8
ヨット	11	平均	4.3	4.3	4.5	4.1	4.4	4.6	4.5	4.6	4.5	4.4	4.6	4.5	4.6	4.2	4.5	4.5
		標準偏差	0.8	1.0	0.8	1.3	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	1.0	0.7	1.1	0.8	0.8
アウトドアレクリエーション	20	平均	4.6	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	4.8	4.5	4.1	4.6
		標準偏差	0.9	0.3	0.3	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.4	0.2	0.2	0.4	0.7	1.0	0.8
ビーチバレー	7	平均	4.9	4.9	5.0	4.9	5.0	5.0	4.9	4.9	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9
		標準偏差	0.4	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.4
スケート	15	平均	4.5	4.6	4.7	4.7	4.8	4.8	4.8	4.9	4.5	4.5	4.7	4.9	4.7	4.6	4.7	4.7
		標準偏差	0.6	0.5	0.5	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	0.6	0.5	0.6	0.3	0.5	0.5	0.5	0.5
スキー	49	平均	4.0	4.5	4.7	4.7	4.7	4.6	4.7	4.5	4.7	4.5	4.7	4.7	4.8	4.6	4.7	4.3
		標準偏差	1.2	0.7	0.8	0.6	0.6	0.8	0.7	0.9	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.6	0.8	1.0

3. 通信教育対象科目

1) 体育理論

レポートおよび試験問題の出題・採点を、植田史生君、村山光義君、村松憲君で担当した。また夏期スクーリング（平成24年8月4日から8月9日）においても体育理論をこの3名で担当した。スクーリングにおける各教員のテーマを表Ⅲ-1-11に示す。

2) 体育実技

夏期・秋期・冬期スクーリングにおいて体育実技を開講した。夏期は平成24年8月4日から8月9日の6日間、14種目を日吉キャンパスにて午前中の2時間15分、実施した。秋期は平成24年11月2日から11月5日まで、ウォーキングエクササイズを行った。冬期は

平成25年2月8日から2月11日、戸狩温泉スキー場でスキーを行った。担当者および履修者数を表Ⅲ-1-12に示す。

4. 他学部における体育関連授業の展開

日吉、三田及び芝共立において開講される体育研究所設置の体育科目および通信教育部のテキスト科目・スクーリング科目に加え、各学部の設置科目の開講についても協力している。平成24年度の他学部設置科目及び担当者を表Ⅲ-1-13に示す。前年度に加え、SFCの体育実技が増加した。今後は他学部の開講科目に加え、体育科目が必修であり、ユニークな特色を持つSFCとの連携を深めることも必要であろう。

表Ⅲ-1-11. 平成24年度通信教育部講義開講科目および担当者一覧

	担 当 者	テ ー マ
体育理論	植 田 史 生	スポーツ文化・スポーツに関する諸問題
	村 山 光 義	スポーツと人間の関係及びその教育的意義
	村 松 憲	身体のしくみ・運動のしくみ・トレーニングのしくみ

表Ⅲ-1-12. 平成24年度通信教育部体育実技スクーリング開講種目および担当者一覧

	種 目 名	担当者	定 員	履修者数	充足率
夏 期	エアロビクス	佐々木玲子	20	19	95%
	剣道	植田 史生	20	8	40%
	ゴルフ	勝又 正浩	20	18	90%
	ソフトボール	綿田 博人	20	11	55%
	体力アップコース	山内 賢	25	24	96%
	卓球	木林 弥生	30	20	67%
	バスケットボール	加藤 大仁	25	22	88%
	バドミントン	加藤 幸司	20	17	85%
	テニス	村松 憲	20	18	90%
	フットサル	須田 芳正	20	19	95%
	太極拳	孔 徳勝	20	17	85%
	バレーボール	石手 靖	30	11	37%
	レクリエーションスポーツ	村山 光義	25	16	64%
	水泳	鳥海 崇	30	27	90%
秋期	ウォーキングエクササイズ	近藤 明彦	30	29	97%
冬期	スキー	水野 英夫	70	30	43%
	合 計		425	306	72%

表Ⅲ-1-13. 塾内における授業担当および協力

授 業 科 目 名	担 当 者	開講学部など	曜日時限など
健康科学	奥山静代	薬学部	春学期金曜 3 時限
薬学的保健体験学習	野口和行	薬学部	秋学期火曜 1, 3 時限
体育Ⅰ	野口和行	総合政策学部 環境情報学部	春学期火曜 3 時限
体育Ⅱ・Ⅲ（野外スポーツ）	野口和行	総合政策学部 環境情報学部	春学期火曜 2 時限
体育Ⅰ	村山光義	総合政策学部 環境情報学部	春学期金曜 3, 4 時限
体育Ⅱ・Ⅲ （レクリエーションスポーツ、 フライングディスク）	村山光義	総合政策学部 環境情報学部	秋学期金曜 2・3 時限
体育Ⅱ・Ⅲ（水泳）	森下愛子	総合政策学部 環境情報学部	春秋学期木曜 3 時限, 金曜 2・3 時限
人体の科学	佐々木玲子, 村山光義	理工学部	秋学期水曜 5 時限

Ⅲ－２ スポーツイベントの開催

1. 塾長杯・塾内競技大会

1) 塾長杯フットサル大会

1. 開催日：平成24年6月30日（土）
2. 会 場：日吉記念館
3. 開催時間：9:00～17:00
4. 参加チーム数：21チーム
5. 参加者数：約250名
（登録選手数150名、観客約100名）
6. ゲーム数：55ゲーム
（1 ゲーム 15 分間、最低 3 ゲーム、
最高 6 ゲーム）
7. 協 力：独立団体フットサル倶楽部
放送研究会
8. 参加チーム抽選会：
平成24年6月27日（水）16:30～17:30
スポーツ棟（体育研究所）2F 会議室
9. 応募チーム数：56チーム
10. 表彰チーム
優勝：teamita
2 位：キッカーズ57th
3 位：F.C. レジスタンス
11. コメント：

本大会では、代表者を抽選会当日に集め、参加チームを決定する抽選会を経て開催される。本年度は、規定内のチーム数だったため、21チームと教職員チームを含めた22チームにおいて組み合わせの抽選を行った。

一喜一憂して選ばれた参加チームには、大会当日集合時間より早く集まり練習したり、ユニフォームを揃えたりと意気込みの強いチームが多数見られた。陸上競技場に3コート作り、予選リーグは12分間×1本、決勝トーナメントは15分間の一発勝負で優勝の栄光を賭けた激しい試合がいくつも繰り広げられた。目の前のボールを必死で追いかける選手の様子と、彼らを見守る声援により競技場

内は、爽やかに汗を掻く塾生の笑顔で輝いていた。



2) 塾長杯バレーボール大会

1. 開催日：平成24年11月10日（土）
2. 会 場：日吉記念館
3. 開催時間：9:00～17:00
4. 参加チーム数：27チーム
（チャンピオンリーグ 9、エンジョイリーグ18）
5. 参加者数：約310名
（塾生210名、観客約100名）
6. ゲーム数：42試合
予選リーグ19試合
決勝トーナメント23試合
7. 協 力：大会実行学生スタッフ
放送研究会（K-Sound）
8. 表彰チーム
チャンピオンリーグ
優勝：立ちはだかる！！
巨魂オールスターズ！
2 位：new winds II
3 位：なかけん会
KVC
エンジョイリーグ
（勝ちトーナメント）
優勝：まりどんと愉快的仲間達
2 位：ちーむふぁいん
3 位：もう大学4年生
（負けトーナメント）
優勝：工藤敏隆ゼミナール
2 位：チームジュノクール
3 位：thv1

9. コメント：

この大会には、チャンピオンリーグ、エンジョイリーグの計27チームが参加した。塾内のバレーボールサークルのメンバーが多数参加したチャンピオンリーグは、3、4、4チーム計3ブロックに分かれてリーグ戦を行い、各ブロックの1位を勝敗で、1位から4位までを得失点差で順位付けした。その順位付けに基づき決勝リーグ進出トーナメントを行い、決勝リーグを行った。

また、エンジョイリーグは例年通り女子の参加も多く、エントリーした全チームの間にトーナメントが行われた。

チャンピオンリーグ、エンジョイリーグともに白熱のゲームが続き、教員チームの参戦も相まって大盛況であった。さらに、放送研究会のアナウンスが円滑な試合進行に貢献しただけでなく、大会を大いに盛り上げてくれた。



3) 塾長杯バスケットボール大会

1. 開催日：平成24年12月15日（土）
2. 会 場：日吉記念館
3. 開催時間：9:00～17:00
4. 参加チーム数：24チーム
5. 参加者数：約210名
（塾生110名、観客約100名）
6. ゲーム数：50試合
（予選：6分×2（ハーフタイム1分）、
決勝：8分×2（ハーフタイム2分）、
決勝戦10分×2（ハーフタイム2分））

7. 協 力：大会実行学生スタッフ
放送研究会（K-Sound）
UNICORNS
審判団（日体大）

8. 参加チーム抽選会：
平成24年12月13日（木）16:30～17:00
スポーツ棟（体育研究所）2F 会議室

9. 応募チーム数：28チーム

10. 表彰チーム
アルティメットリーグ
優勝：されじお
2位：ナナメギ
エンジョイリーグ
優勝：サウスポー
2位：Sバス

11. コメント：
本大会には、28チームの参加表明（アルティメットリーグ11チームとエンジョイリーグ17チーム）があり、和やかな雰囲気の中で抽選会が開かれた。抽選によって、アルティメットリーグ12チームとエンジョイリーグ12チームに分かれて競技を行った。アルティメットリーグでは、技術・技能とも高いと自称するチーム対象として、またエンジョイリーグでは、純粋にバスケットの試合を楽しみたいチームを対象となっている。両リーグともチームのカラーを出し切って、迫力ある競技が展開された。

運営には、大会実行学生スタッフ25名が準備から片付け、受付やゲーム進行を行い、外部から資格を持つ学生審判6名を受け入れて行った。さらに塾内の放送研究会による試合実況放送や昼休みのエキシビジョンとして UNICORNS によるチアリーディングが披露され、とても盛り上がった。本大会は、参加選手・大会実行学生スタッフ・観戦者・教職員が一体となった大会であった。



4) 新春塾内卓球大会

1. 開催日：平成25年1月12日（土）
2. 会 場：スポーツ棟（体育研究所）
地下1階卓球場
3. 開催時間：10:00～15:00
4. 参加者数：34名
（塾生14名、教職員及び卒業生18名、
学生スタッフ2名）
（シングルス18名、ダブルス9ペア）
5. ゲーム形式
予選リーグ：11点先取3セットマッチ
決勝トーナメント：11点先取3セット
マッチ（決勝のみ5セットマッチ）
6. 表彰チーム

ダブルス（セミプロの部）

優勝：藤井喜之（総合政策1年）

森 謙吾（法法2年）

準優勝：伊藤晋太郎（理工3年）

秋山昌弘（法政4年）

3位：大村一究（環境情報4年）

守友康一（環境情報1年）

ダブルス（エンジョイの部）

優勝：長山詩穂（看護医療2年）

佐藤 綾（看護医療2年）

準優勝：長野泰之（文学部3年）

栗原美貴（文学部4年）

3位：栗生賢一郎

庄山則子（矢上研究支援センター）

シングルス（セミプロの部）

優勝：藤井喜之（総合政策1年）

準優勝：大村一究（環境情報4年）

3位：森 謙吾（法法2年）

守友康一（環境情報1年）

シングルス（エンジョイの部）

優勝：長野泰之（文学部3年）

準優勝：長山詩穂（看護医療2年）

3位：佐藤 綾（看護医療2年）

溝谷優治（理工学研究科）

7. コメント：

本大会において、木林弥生君（体育研究所非常勤講師卓球担当）には、当委員会にご協力いただき、大会の事前準備から当日運営に至るまで、ご本人の卓球に関するご経験を活かし、大会の円滑な運営にご尽力いただいた。また、卒業生の方々と対戦したことで、時代を超えた繋がりができた大会となった。



2. 公開講座

1) ヨガ&エアロビクス

1. 日 程：

平成24年10月1日（月）、5（金）、
12日（金）、15日（月）、19日（金）、
22日（月）

2. 会 場：協生館エクササイズスタジオ

3. 開催時間：18:30～19:30

4. 講 師：

佐々木玲子（体育研究所教授）、
奥山静代（体育研究所専任講師）、
杉本亮子（体育研究所非常勤講師）

5. 参加者数：22名

（男性2名、女性20名）

6. 受講料：4,000円（塾内2,000円）

7. コメント：

本講座は、授業でも大人気の種目で、今回の申込も1日にして定員になったほどの大人気ぶりだった。ヨガは呼吸法から始まるので、初めての方でも気軽に受けることができた。エアロビクスは、ほどよく汗をかけるほどの強度で、笑顔あふれる教室となった。



3. 所内施設の開放

1) 協生館トレーニングルーム一般開放

1. 期 間：

【春学期】平成23年 5 月 7 日（金）～ 7 月 18 日（水）

【秋学期】平成24年10月 1 日（月）～12月 21 日（金）、1 月 7 日（月）～ 1 月18日（金）

2. 曜日時間：月・水・木・金
15:00～18:00

3. 担当者

月：長山拓郎 君 / 商学部 4 年

水：田中和希 君 / 理工学部 2 年

木：丸山浩央 君 / 理工学部 2 年

金：森下愛子 / 永田直也（助教）

4. 利用者数：1,776名
（春学期804名、秋学期972名）

5. コメント：

本年度は例年より開放日を 1 日増やし、月曜、水曜、木曜、金曜の 15:00～18:00 において協生館トレーニングルームの開放を行った。学生間の認知度も上がり、女子学生の利用もみられるようになった。利用者数は年々増加しており、最近では時間帯によっては混雑することもあるので、トレーニング機器の占有をせず、譲り合って効率的な利用ができるようにしている。

2) プール特別一般開放

1. 期 間：

【春学期】平成24年5月16日（水）～18日（金）

【秋学期】平成24年1月17日（木）～18日（金）

2. 時 間：15:00～18:00

3. 場 所：協生館プール（可動床部分）

4. 対象者：学部生、大学院生（留学生含）

5. 受付・監視：鳥海崇 / 森下愛子

6. 利用者数：

【春学期】延べ36名

【秋学期】延べ10名

7. コメント：

今回の開放は、来年度より定期的なものにするためのお試しで行った。毎日泳ぎにくるといった学生もあり、来年度に向けて好感触となる開放となった。



3) 多目的コートの貸出

1. 曜日時間：平日 授業終了後
土日 終日可
2. 利用状況：231団体
(春学期137団体、秋学期94団体)
3. 日数：196日 / 202日稼働
(春学期107日 / 108 日稼働、秋学期89
日 / 94日稼働)
4. コメント：

トレーニングルームの開放同様に、塾生間の認知度が上がり、多数の団体からの借用申請でほぼ毎日埋まっている。最近では、「多目的コート貸出」という題目の本旨のように、多種目での利用者団体が増加し、団体間の交流もさらに深まっている。今後は利用者へのさらなる周知をするとともに、塾長杯バレーボール大会の予選等、塾生の交流の場として運用していきたい。

第3校舎下
多目的コート
貸出し中

バレーボール・フットサルなど



● 利用可能時間 ●

平日	授業終了後～
土日祝	終日可

※ただし、雨天は休場

● 利用方法 ●

①体育研究所受付にて予約をする。(電話予約不可)
・代表者(塾生が塾生を指導の上、申込)

②原則として、一団体の予約は一日まで。
・複数日の予約はできません。

③予約当日は、体育研究所受付にてバレーボールコートの鍵を借り、鍵精返却。
・本日の利用量が所定数の場合、金代表者同士で鍵の受渡方法を相談。
・最終的に使用する団体が鍵を返却を行う。(最終まで待機)

・返却が遅れた場合、貸出・禁止となる場合があります。

※詳しくは体育研究所受付にて直接お問い合わせください。

鹿児島大学 体育研究所

Ⅲ－３ 他機関との連携

１．公開講座

慶應義塾大学・読売新聞社 横浜市民講座「スポーツの見方・楽しみ方」

日 程：平成24年 5月26日、6月2日、9日、16日（いずれも土曜日）

会 場：日吉キャンパス 第4校舎独立館 DB203教室

開催時間：14:00～15:30

対 象 者：誰でも参加可（定員：300名）

コーディネーター：佐々木 玲子 講師：村山 光義、吉田 泰将、村松 憲

参加者数：各回300名（定員）

受 講 料：無料

２．一貫校連携

１）慶應義塾創立150年記念未来先導プログラム「水に親しむ」

日 程：

【春学期】平成24年 5月27日、6月3日、10日、17日、24日（いずれも日曜日）

【秋学期】平成24年10月28日、11月4日、11日、18日、25日（いずれも日曜日）

会 場：協生館プール

開催時間：

【春学期】（小学生の部）13:00～14:00

（中学生の部）14:00～15:00

【秋学期】（小学生の部）11:00～12:30

（中学生の部）12:30～14:00

対 象 者：幼稚舎生、付属中学生

コーディネーター：石手 靖 講師：鳥海 崇、森下 愛子

参加者数：

【春学期】（小学生）延べ103名

（中学生）延べ16名

【秋学期】（小学生）延べ138名

（中学生）延べ12名

受 講 料：無料

２）幼稚舎特別授業（体育：サッカー）

日 程：平成24年12月4日

会 場：幼稚舎グラウンド

開催時間：10:00～14:30

対 象 者：6年生

講 師：須田 芳正

参加者数：144名

受 講 料：無料

3. 体育会支援

植田	史生	体育会参与
綿田	博人	体育会副理事、高等学校硬式野球部特別招聘コーチ
石手	靖	体育会副理事
吉田	泰将	剣道部副師範、医学部剣道部師範代行
加藤	幸司	バトミントン部ヘッドコーチ
須田	芳正	サッカー部監督
鳥海	崇	水泳部水球部門コーチ
坂井	利彰	庭球部監督

IV. 業務活動記録

IV. 業務活動記録

平成24年度総務分野関係報告

1 人 事

- (1) 就任（新任）
坂井利彰君（専任講師（有期））
（4月1日付）
永田直也君（助教（有期））
（4月1日付）
- (2) 就任（継続）
森下愛子君（助教（有期））
（4月1日付）
- (3) 主事の交代
石井宜明君から渡辺秀人君
（6月1日付）

2 塾内役職

- (1) 大学寄宿舍舎監 近藤明彦君
- (2) 大学寄宿舍委員会委員 近藤明彦君
- (3) 大学教養研究センター運営委員
植田史生君（所長）
- (4) 大学教養研究センター所員
近藤明彦君、石手 靖君、村山光義君、
吉田泰将君、加藤大仁君、野口和行君、
村松 憲君、佐々木玲子君、山内 賢君
- (5) 大学学生総合センター副部長（日吉支部）
石手 靖君
- (6) 体育会副理事
綿田博人君、石手 靖君
- (7) 日吉キャンパスカレンダー編集委員長
奥山静代君
- (8) 極東証券寄附講座「生命の教養学」企画委員
鳥海 崇君
- (9) 日吉行事企画委員会（HAPP）委員
石手 靖君
- (10) 立科山荘運営委員会委員
野口和行君
- (11) 日吉キャンパス公開講座運営委員会委員
佐々木玲子君
- (12) 記念館運営連絡協議会委員
植田史生君、加藤幸司君、鳥海 崇君
- (13) 総合研究推進機構研究倫理委員会
研究倫理審査委員会委員
佐々木玲子君

- (14) 人事委員会委員
植田史生君、近藤明彦君、佐々木玲子君、
綿田博人君、石手 靖君、村山光義君
- (15) 体育会参与
植田史生君（所長）
- (16) 大学保健管理センター運営委員
植田史生君（所長）
- (17) 大学スポーツ医学研究センター運営委員
植田史生君（所長）
- (18) 日吉キャンパス運営委員
植田史生君（所長）
- (19) Hiyoshi Research Portfolio (HRP) 運営委員
植田史生君（所長）
- (20) Hiyoshi Research Portfolio (HRP) 実行委員
村山光義君
- (21) 慶應義塾大学通信教育部学習指導副主任
石手 靖君

3 研究所内役職の主なもの

- (1) 所 長
植田史生君
- (2) 副所長
綿田博人君
- (3) 学習指導主任
石手 靖君
- (4) 学習指導副主任
村山光義君（～9月30日）、
須田芳正君（10月1日～）
- (5) 総務委員会委員長
吉田泰将君
- (6) 教育委員会委員長
石手 靖君
- (7) 研究委員会委員長
村山光義君
- (8) スポーツ振興委員会委員長
加藤幸司君
- (9) 将来構想委員会委員長
加藤大仁君
- (10) 活動報告書編集委員会委員長
吉田泰将君

（主事 渡辺秀人）

平成24年度活動報告書

平成25年 7 月 1 日発行

[非売品]

編 集：活動報告書編集委員会

吉田 泰将（委員長）

村松 憲 鳥海 崇 坂井 利彰

森下 愛子 永田 直也

発 行：慶應義塾大学体育研究所

〒223-8521 横浜市港北区日吉 4 - 1 - 1

制 作：(有)梅沢印刷所

〒108-8345 東京都港区三田 2 - 15 - 45